

実務経験のある教員等による授業科目

授業科目名	単位時間数	教員・講師名	実務経験等
生化学(栄養学を含む)	10	隈元羊子	病院にて栄養士・管理栄養士として実務経験あり
病理学Ⅱ	45	浜田倫史	病院にて歯科医師として実務経験あり
薬理学	30	高井知也	病院にて薬剤師として実務経験あり
公衆衛生学	15	多賀志津子	保健所にて保健師として実務経験あり
社会福祉	30	満枝政文	病院にて看護師として実務経験あり
関係法規(生命倫理を含む)	30	今井洋子	病院にて看護師として実務経験あり
看護学概論	45	徳永美代子	病院にて看護師として実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅰ	30	渡司美鈴	病院にて看護師として実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅱ	30	清武秀一	病院にて看護師として実務経験あり
		西山りか	病院にて看護師として実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅲ	30	小菌純子	病院にて看護師として実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅳ	45	安永澄子	病院にて看護師として実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅴ	30	下登孝子	病院にて看護師として実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅵ	45	渡司美鈴	病院にて看護師として実務経験あり
基礎看護学実習	90	西山りか	病院にて看護師として実務経験あり
成人看護学概論	30	下登孝子	病院にて看護師として実務経験あり
成人看護学援助論Ⅰ	60	今吉和子	病院にて看護師として実務経験あり
		佐藤玲子	病院にて看護師として実務経験あり
		下登孝子	病院にて看護師として実務経験あり
成人看護学援助論Ⅱ	30	下登孝子	病院にて看護師として実務経験あり
成人看護学実習	90	下登孝子	病院にて看護師として実務経験あり
老年看護学概論	30	小菌純子	病院にて看護師として実務経験あり
老年看護学援助論Ⅰ	30	紀成子	病院にて看護師として実務経験あり
		西山りか	病院にて看護師として実務経験あり
老年看護学援助論Ⅱ	45	安永澄子	病院にて看護師として実務経験あり
		清武秀一	病院にて看護師として実務経験あり
老年看護学実習	90	渡司美鈴	病院にて看護師として実務経験あり
小児看護学概論	30	安永澄子	病院にて看護師として実務経験あり
小児看護学援助論Ⅰ	30	寛山佳史	病院にて医師として実務経験あり
小児看護学援助論Ⅱ	30	小菌純子	病院にて看護師として実務経験あり
小児看護学実習	90	小菌純子	病院にて看護師として実務経験あり
母性看護学概論	30	徳永美代子	病院にて看護師として実務経験あり
母性看護学援助論Ⅰ	45	平田美雪	病院にて看護師・助産師として実務経験あり
		森琴美	病院にて看護師・助産師として実務経験あり
母性看護学援助論Ⅱ	15	森琴美	病院にて看護師・助産師として実務経験あり
母性看護学実習	90	徳永美代子	病院にて看護師として実務経験あり
精神看護学概論	30	清武秀一	病院にて看護師として実務経験あり
精神看護学援助論Ⅰ	30	松下兼介	病院にて医師として実務経験あり
		松下兼宗	病院にて医師として実務経験あり
		小菌純子	病院にて看護師として実務経験あり
精神看護学援助論Ⅱ	30	清武秀一	病院にて看護師として実務経験あり
精神看護学実習	90	清武秀一	病院にて看護師として実務経験あり
在宅看護概論	30	西山りか	病院にて看護師として実務経験あり
在宅看護援助論Ⅰ	45	渡司美鈴	病院にて看護師として実務経験あり
		西山りか	病院にて看護師として実務経験あり
在宅看護援助論Ⅱ	30	西山りか	病院にて看護師として実務経験あり
在宅看護実習	90	西山りか	病院にて看護師として実務経験あり
看護管理と研究	30	徳永美代子	病院にて看護師として実務経験あり
		清武秀一	病院にて看護師として実務経験あり
医療安全	30	紀成子	病院にて看護師として実務経験あり
		伊瀬知育美	病院にて看護師として実務経験あり
災害・国際看護	15	徳永美代子	病院にて看護師として実務経験あり
臨床看護の実践	15	渡司美鈴	病院にて看護師として実務経験あり
統合実習	90	下登孝子	病院にて看護師として実務経験あり
計	1,825		

シラバス

隈元羊子 病院にて栄養士・管理栄養士として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
生化学(栄養学を含む)	2年次	1単位	30時間	大竹 孝明・隈元 羊子
科目目標	<p>(生化学)生化学は生命現象を化学の理論と方法で理解する学問であり、看護学を学ぶ基礎となる科目の一つである。例えば、看護で大切な栄養学は生化学の知識を抜きにしては成り立たない。</p> <p>生化学では生命を構成している物質の構造、機能あるいは代謝が研究対象であるので、形態として取り扱うことは少なく、化学記号で表わされることが多い。そのために抽象的で親しみにくい学問という印象を与えているようであるが、生体は物質で構成されているのだから化学の概念を抜きにしては生命現象の理解は困難であり、生命をよりよく理解するために生化学の習得が必要となる。</p> <p>生命に関する知識は、分子生物学や組換えDNA技術を含むバイオテクノロジーの進歩に伴って急速に増加を続けている。したがってこの分野の知識は膨大であり、限られた時間にその全体を学ぶことは困難であるので、解説する。(栄養学)①食と健康との関わりについて、栄養素の問題、食品の組合せの問題等について理解できる。</p> <p>②食事を摂ることが患者にとって大切な医療行為の一端であることを正しく理解する。</p>			
使用教材 参考文献	<p>わかりやすい生化学 第4版-疾病と代謝・栄養の理解のために-(ヌーヴェルヒロカワ), わかりやすい栄養学 第3版-臨床・地域で役立つ食生活指導の実践-(ヌーヴェルヒロカワ), 系統看護学講座別巻 栄養食事療法(医学書院), 国民衛生の動向(厚生統計協会)</p>			
評価方法	課題レポート・学習態度・発表・出席状況・終講テストを考慮し、総合的に評価する。			
講義時間	授業要目	授業内容	授業形態	
2時間	1. 生化学の基礎	①物質の構成, ②化学結合, ③有機化合物	・講義	
2時間	2. 生体の成り立ちと生体分子	①細胞の構造と働き, ②生体を構成する物質, ③生体で起きている反応-代謝	・講義	
2時間	3. タンパク質の性質	①タンパク質の分類, ②アミノ酸の種類, ③タンパク質の高次構造・変性	・講義	
2時間	4. 酵素の性質と働き	①酵素の特性・種類, ②アイソエンザイム, ③血清酵素の診断への利用	・ビデオ視聴 ・講義	
2時間	5. 生体内における糖質の代謝	①糖の特性・種類, ②グルコース・グリコーゲンの合成, ③血糖の調節, ④糖尿病	・講義	
2時間	6. 生体内における脂質の代謝	①脂質の種類と化学的性質, ②脂質の代謝, ③リポタンパク質と脂質代謝異常	・講義	
2時間	7. 生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝	①脱アミノ反応, ②脱炭酸反応, ③尿素回路, ④糖新生, ⑤エネルギー代謝	・講義	
2時間	8. 生体内における核酸の役割-生命の秘密が書き込まれた不思議な鎖-	①核酸の種類と構造, ②核酸の複製, ③タンパク質を作るための核酸	・講義	
1時間	9. 体液(生体内における水と無機質の役割)	①水, ②無機質と微量成分, ③酸・塩基平衡	・講義	
1時間	10. 血液と尿の役割	①血液, ②尿	・講義	
1時間	11. 食生活と栄養食事療法	①人間の食生活, ②食生活と栄養食事療法, ③栄養食事療法と看護の役割	・講義 ・講義	
1時間	12. 医療・福祉の場におけるける栄養食事療法	①疾患と栄養, ②おもな栄養関連疾患と栄養食事療法, ③チーム医療と栄養食事療法, ④医療保険制度と栄養食事療法, ⑤福祉, 介護保険制度と栄養食事療法	・講義	
2時間	13. 病人食の特徴と種類	①病人食の特徴, ②病人食の種類, ③病人食と食品選択	・講義	
2時間	14. 病態別の栄養食事療法	①循環器・消化器・腎・栄養代謝性・血液・精神・神経疾患患者の栄養食事療法, ②術前・術後の栄養管理, ③妊産婦・小児疾患患者の栄養食事療法	・講義	
2時間	15. ライフステージの栄養	①高齢者の栄養と食事ほか	・講義	
2時間	16. 医療保険制度・介護保険制度と食事	①医療保険・診療報酬制度のしくみと食事, ②介護保険制度	・講義 ・講義	
2時間	総合評価	終講テスト		

シラバス

病院にて歯科医師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
病理学Ⅱ	2年次	3単位	45時間	浜田 倫史
科目目標	各系統別に主な疾患の病態生理・検査・治療・予後について学び、看護の展開に活かす。			
使用教材 参考文献	病理学・・・医学書院			
評価方法	終講試験 学習態度(聴講の姿勢、課題提出状況、発表他)、出席状況			
講義時間	授業要目	授業内容	授業形態	
2	1. 循環器系の疾患	1. 心臓の疾患 2. 血管の疾患	講義 DVD	
6	2. 血液・造血器系の疾患	1. 骨髄および血液の疾患 2. リンパ系および脾臓の疾患	講義	
6	3. 呼吸器系の疾患	1. 鼻腔・咽頭・喉頭の疾患 2. 気管・気管支・肺の疾患 3. 胸膜の疾患	講義 プリント	
6	4. 消化器系の疾患	1. 口腔・食道の疾患 2. 胃の疾患 3. 腸・腹膜の疾患 4. 肝臓・胆管・胆のうの疾患	講義 DVD	
6	5. 腎・泌尿器・生殖器官および乳腺の疾患	1. 腎・泌尿器系の疾患 2. 生殖器系の疾患 3. 乳腺の疾患	講義	
6	6. 内分泌系の疾患	1. ホルモンとホメオスターシス 2. 内分泌臓器の分布と機能	講義	
6	7. 脳・神経・筋肉系の疾患	1. 脳・神経系の疾患 2. 筋肉系の疾患	講義 DVD	
3	8. 骨・関節系の疾患	1. 骨折 2. 骨髄炎 3. 骨粗しょう症他	講義	
2	9. 耳・眼・皮膚の疾患	1. 緑内障 2. 白内障 3. 網膜の疾患他 4. アトピー性皮膚炎 5. 皮膚の腫瘍	講義	
2	まとめと総合評価	終講試験		

シラバス

病院にて薬剤師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
薬理学	1年	1単位	30時間	高井 知也
科目目標	看護師は最も患者と接する機会が多く、薬物治療を受けている患者の回復に果たす役割は大きい。各医薬品の作用機序、主作用、副作用、有害事象、および疾患と医薬品の正しい関係を理解することにより、医師処方による医薬品の適切性の確認と早期の副作用発見を通じて効果的かつ安全な薬物治療に関与することを目的とする。			
使用教材 参考文献	系統看護学講座専門基礎分野薬理学疾病のなりたちと回復の促進(3)「医学書院」			
評価方法	各章末のゼミナール(練習問題)と期末試験、出席状況、授業態度を考慮し、総合的に判断する			
講義時間	授業項目	授業内容		授業形態
2	薬理学総論	薬理学とはなにか、薬による病気の治療		講義
2	薬理学総論	薬力学、薬物動態学、薬物相互作用、薬事法		講義
2	看護業務に必要な知識	処方箋、単位、添付文書について		講義
2	抗感染症薬・抗がん薬・免疫治療薬	抗感染症薬・抗がん薬・免疫治療薬の薬理学的作用機序		講義
2	抗アレルギー薬・抗炎症薬 末梢神経に作用する薬物	抗アレルギー薬・抗炎症薬 末梢神経に作用する薬物の薬理学的作用機序		講義
2	中枢神経に作用する薬物	中枢神経に作用する薬物の薬理学的作用機序		講義
2	心臓・血管系に作用する薬物	心臓・血管系に作用する薬物 の薬理学的作用機序		講義
2	呼吸器・消化器・生殖器に 作用する薬物	呼吸器・消化器・生殖器に 作用する薬物の薬理学的作用機序		講義
2	物質代謝に作用する薬物	物質代謝に作用する薬物 の薬理学的作用機序		講義
2	皮膚科用薬・眼科用薬	皮膚科用薬・眼科用薬 の薬理学的作用機序		講義
2	救急薬	救急薬の薬理学的作用機序		講義
2	漢方薬	漢方薬の薬理学的作用機序		講義
2	消毒薬・輸液製剤・輸血剤	消毒薬・輸液製剤・輸血剤の薬理学的作用機序		講義
2	薬理学総論	薬理学の総合的理解		講義
2	総合評価	薬理学全般の理解度の把握		期末試験

シラバス

保健所にて保健師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
公衆衛生学	2年次	1単位	15時間	多賀 志津子
科目目標	1. 公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方について理解する。 2. 健康が環境や生活習慣と深く関わっていることを理解し、疫学の基本的な考え方を学ぶ。 3. 代表的な感染症について、流行状況や感染予防対策を学ぶ。			
使用教材 参考文献	公衆衛生(医学書院) 国民衛生の動向			
評価方法	終講試験 学習態度(聴講の姿勢, 出席状況)			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
2時間	1. 公衆衛生の理念	1. 公衆衛生の目的とその方法 2. 健康の概念と主観的健康感 3. 権利とプライマリー・ヘルスケア		講義
	2. 公衆衛生の技術	1. 疫学と健康指標 2. 健康づくりを支援する新しい健康教育 3. 集団とコミュニティを対象とした政策立案 4. 活動計画と実践評価のプロセス		講義
2時間	3. 医療の動向と 医療保障	1. 医療の動向 2. 医療保障制度と医療経済		講義
2時間	4. 公衆衛生と 国際化	1. 公衆衛生と国際化 2. 国際協力 3. 情報公開と生命倫理		講義
	5. 地域保健	1. 地域と健康 2. 地域保健		講義
2時間	6. 母子保健	1. 健やか親子21 2. 子育てと家族 3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 4. ジェンダー		講義
	7. 学校保健	1. 学校保健のしくみと制度		講義
2時間	8. 成人・老人保健	1. 高齢者の医療の確保に関する法律 2. 健康増進法 3. 介護保険法		講義
	9. 難病対策	1. 難病保健システム		講義
2時間	10. 生活環境	1. 地球環境問題 2. 身の回りの環境問題		講義 DVD
	11. 産業保健	1. 労働者を取り巻く状況と健康問題 2. 働く人々の健康をまもる活動 労働衛生対策の基本 3. 産業保健に期待される活動		講義
2時間	12. 感染症・危機管理	1. 感染症・危機管理・災害保健		講義
1時間	まとめと総合評価	終講試験		

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
社会福祉	2年	1	30	満枝 政文
科目目標	<p>・社会保障や社会福祉の制度は、支援を必要とする特定の人を対象とするものとして捉えられがちであるが高齢者福祉や少子化対策・年金制度の抱える課題など国民全てが関心を持つ分野である。人間の健康に関わる看護師として、医療・看護と特に関連の深い領域の社会保障、社会福祉に関する知識を深める。</p>			
使用教材 参考文献	社会福祉(医学書院)			
評価方法	・終講テスト			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
4時間	社会保障制度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障の概念・目的 2. 社会保障の体系・内容 		教科書にそって講義
2時間	社会福祉の法制度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉六法と社会福祉法 		
2時間	社会福祉の動向	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障と社会福祉の動向 		
4時間	医療保障	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康保険と国民健康保険 2. 老人保健と医療制度改革 		
4時間	介護保障	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険制度の歴史と概要 2. 介護保険制度の課題と展望 		
4時間	所得保障	<ol style="list-style-type: none"> 1. 所得保障の仕組み 2. 年金保険制度 3. 社会手当・労働保険制度 		
4時間	公的扶助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活保護制度の仕組み 2. 生活保護制度の動向・低所得者対策 		
4時間	社会福祉の分野	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者福祉 2. 障害者福祉 3. 児童家庭福祉 		
2時間	医療と福祉の連携	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉実践と医療・看護 	終講テスト	

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
関係法規	1年次	2単位	30時間	今井 洋子
科目目標	法規の概念を学び医療・看護職に必要な法規について理解し、法的根拠に基づいて、生命倫理について学ぶ。また、対象の基本的な人権・生命尊厳の必要性について理解する。			
使用教材 参考文献	医学書院・総合医療論・看護関係法令			
評価方法	出席状況・課題レポートの内容・授業態度・終講試験			
講義時間	授業要目	授業内容	授業形態	
4時間	1. 法の概念	1. 法の概念 2. 衛生法の意義 3. 衛生法の沿革	講義	
4時間	2. 医事法	4. 衛生法の分類 5. 厚生行政のしくみ 1. 看護法 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 2. 医師法・医療法 1) 医師法 2) 医療法 3. 関係資格法 1) 診療放射線技師法 2) 臨床検査技師等に関する法律 3) 理学療法士及び作業療法士法 4) 視能訓練士法 5) 言語訓練士法 6) 臨床工学士法 7) 義肢装具士法 8) 救急救命士法 9) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に関する法律 10) 柔道整復師法 11) 歯科医師法 12) 歯科衛生士法 13) 歯科技工士 4. 医療を支える法 1) 臓器の移植に関する法律	講義	
4時間	3. 保健衛生法	1) 学校保健法 2) 健康増進法 3) がん対策基本法 4) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 5) 予防接種法 6) 検疫法	講義	
2時間	4. 環境衛生法 社会保障法	1. 食品安全基本法 2. 狂犬病予防法 1. 社会保障のしくみ 2. 健康保険法 3. 国民健康保険法	講義	
4時間	5. 援助と共感 6. 医療と看護の原点	1. 看護のこころ 2. 専門職としての医師と看護師 1. いのちと健康 2. 病の体験 3. 癒しの行為 4. 医療的ケアと管理		
4時間	7. 医療の歩みと医療 観の変遷	1. 現代医学の起源 2. 20世紀の医療 3. 医療観のうつりかわり		
4時間	8. 私たちの生活と 医療	1. もしも私たちが病気けがをしたら 2. 障害者のノーマライゼーションと新たな社会的きずな	講義	
4時間	9. 技術社会の高度化 高度化と健康・生命を めぐる新たな課題	1. 先端医療技術の成果と私たちの新たな課題	講義	
2時間	10. 成熟する社会人と 人々の意識改革	1. インフォームドコンセントと医療情報		
2時間	総合評価	終講試験とまとめ		

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
看護学概論	1年次	1単位	45時間	徳永美代子
科目目標	1. 「看護とはなにか」を追求しつつ、ライフサイクルにおける健康について理解し、専門職として看護について学び看護の概念を理解する。 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統合体として理解する。 3. 看護実践における研究の意義、重要性を理解する。 4. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解し、看護活動のあり方を学ぶ。 5. 看護活動を円滑に行うための管理について理解する 6. 看護師として諸外国との国際協力の必要性について理解する。			
使用教材 参考文献	:看護学概論 (医学書院)・看護学概論 (MCメディカ出版) プリント、ビデオなどを参考に講義			
評価方法	:基本的には出席状況と終講試験			
講義時間	授業要目	授業内容	授業形態	
6時間	1. 看護の概念	1)看護の原点 2)看護の理念 3)看護の理念と構成要素 4)看護実践における研究	講義 DVD	
6時間	2. 看護の対象としての人間	1)人間の欲求と健康 2)健康のとらえ方 3)国民の全体像をつかむ		
2時間 4時間 2時間 3時間 4時間	3. 看護実践における研究	1)看護における研究の意義 2)文献の活用 3)研究の方法 4)発表の仕方と参加のマーナ 5)研究発表参加・まとめ	講義 文献検索 事例 講義 研究発表参加 事例	
4時間	4. 看護の提供者	1)職業としての看護 2)看護職の養成制度と就業状況 3)看護職者の教育とキャリア開発 4)看護職者の養成制度の課題 5)看護職者の倫理	講義	
6時間	5. 看護の提供のしくみ	1)サービスとしての看護 2)看護サービス提供の場 3)看護をめぐる制度と政策 4)看護サービスの管理 5)医療安全と医療の質保証	講義 グループワーク	
6時間	6. 広がる看護の活動領域	1)看護の国際協力 2)災害時における看護 3)災害と健康 4)災害への備えとそのシステム	VTR 事例 講義	
2時間	7. まとめ・テスト	まとめ・終講テスト	テスト・まとめ	

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
基礎看護学方法論 I	1 年次	1	30	渡司 美鈴
科目目標	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを学び、看護過程を用いることの意義を理解する 2. 看護過程の各段階の構成要素とその関連性をふまえ、問題解決へみちびく課程を学ぶ 3. 看護過程のプロセスのなかでクリティカルシンキングの技能を身につける 4. 看護記録の目的と留意点およびその構成について理解する 5. 人の健康について考え、健康実現へむけた支援のあり方を考える			
使用教材 参考文献	1. 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I (医学書院) 2. ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント 第 3 版 3. 看護診断ハンドブック第 11 版 4. 基準看護計画 第 3 版			
評価方法	提出物、小テスト、終講試験			
講義時間	授業要目	授業内容	授業形態	
4	1. 看護過程とは	① 看護の主要概念 ② 看護の定義 ③ 看護過程と POS ④ 看護過程に必要な倫理的配慮	講義	
4	2. 看護診断 (ゴードンの考えによる看護診断)	① NANDA-I 看護診断 ② リンダ・J・カルペニートの看護診断 ③ 生理的欲求から看護診断を考察	講義 演習	
12	3. 事例による看護過程の進め方	① アセスメントに必要な情報と情報源 ② 主観的データと客観的データ ③ データ収集の方法 ④ 人間の反応とアセスメント ⑤ 解釈・分析・推論・判断 ⑥ 全体像(関連図)の作成 ⑦ 看護診断と問題リスト ⑧ 目標設定(長期目標・短期目標) ⑨ 看護計画立案 (計画立案のための留意点) ⑩ 評価と計画の修正(アセスメント)	講義 演習	
4	4. 看護記録	① 看護介入と記録・報告 ② 看護記録と評価・目標達成度の判定 ③ 多職種との情報共有	講義 演習	
5	5. 学習支援	① 教育計画 ② アクションプラン(具体策)の提案 ③ 症状マネジメントとサインマネジメント ④ リフレクション	講義 演習	
1	総合評価	① 看護過程記録 ② 終講試験		

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単 位	時間数	担 当 者
基礎看護学方法論Ⅱ	1年次	1/2単位	15時間	清武 秀一
科目目標	<p>患者や家族との関わりを通しながら、人の健康状態を身体的・心理的・社会的な側面から総合的にアセスメント方法や重要性を学ぶ。また、学習支援、コミュニケーションの方法や重要性を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるヘルスアセスメントの意義・目的を理解し、あらゆる健康レベルにある人々の身体構造と機能の系統的な観察・測定技術の必要性を学ぶ。 2. 健康問題の異常の主な発生意因、正常と異常の判断基準と方法を学ぶ。 3. 身体的・心理的・社会的な側面から総合的なヘルスアセスメントを行うことの重要性を理解できる。 4. 看護における学習支援の方法や必要性を学ぶ。 5. 看護におけるコミュニケーションの方法や必要性を学ぶ。 			
テキスト文献	<p>系統看護学講座専門Ⅰ・基礎看護学(2)基礎看護技術Ⅰ(医学書院)、第2版ナースのためのフィジカルアセスメント(廣川書店)、演習・実習チェック学習やってみよう!ヘルスアセスメント(メディカ出版)、ナーシング・グラフィカ⑩基礎看護学ヘルスアセスメント(メディカ出版)、新版看護学全書13基礎看護学2基礎看護学(メヂカルフレンド社)、系統看護学講座別巻17・臨床看護総論(医学書院)、成人看護学ヘルスアセスメント(ヌーヴェルヒロカワ)、JNNスペシャルNo.63ナースのための新ME機器マニュアル(医学書院)、フィジカルアセスメントガイドブック(医学書院)</p>			
評価方法	出席状況、授業態度、終講テストなど			
講義時間	授 業 要 目	授 業 内 容	授 業 形 態	
8時間	第1章 コミュニケーション	<p>A. コミュニケーションの意義と目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは 2. 医療におけるコミュニケーション <p>B. コミュニケーションの構成要素と成立過程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション手段 2. 構成要素と成立過程 <p>C. 関係構築のためのコミュニケーションの基本</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 接近性コミュニケーションの原理 2. 接近的行動と非接近的行動 <p>D. 効果的なコミュニケーションの実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 傾聴の技術 2. 情報収集の技術 3. 説明の技術 4. アサーティブネス <p>E. コミュニケーション障がいへの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションに障がいがある人の特徴 2. 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3. コミュニケーション障がいがある人への対応 	<p>・講義 ・演習(ロールプレイ)</p>	
6時間	第2章 ヘルスアセスメント	<p>A. ヘルスアセスメントとは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントが持つ意味 2. ヘルスアセスメントにおける観察 3. ヘルスアセスメントにおける重要な視点 <p>B. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問診(面接)の技術 2. 健康歴聴取の目的 3. 健康歴聴取の実際 4. セルフケア能力のアセスメント 5. 情報の整理 <p>C. 全体の概観</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントに必要な技術 <ol style="list-style-type: none"> ①視診の技術、②触診の技術、③聴診の技術、④打診の技術 <p>E. 心理・社会状態のアセスメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理的側面のアセスメント 2. 社会的側面のアセスメント 	<p>・講義 ・演習</p>	
1時間	総合評価	終講テスト		

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授 業 科 目	履修年次	単 位	時 間 数	担 当 者
基礎看護学方法論Ⅱ	1年次	1/2単位	15時間	西山 りか
科目目標	<p>患者が安全・安楽にその人の生活にあった療養生活を送る為には、ヘルスアセスメントを行的確な看護介入が必要となる。その為には、身体的側面から健康上の問題を査定・評価する技術として、視診・触診・打診・聴診(フィジカルイグザミネーション)が不可欠である。この観察は、だれが行っても同じ結果が出るように手法が確立されている。本講義では、この基本的な手技を用いた診査方法について学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの意義が理解できる。 2. 健康上の問題を査定・評価する技術として、視診・触診・打診・聴診(フィジカルイグザミネーション)の基本的な手技が理解できる。 3. 習得した知識を基に一連の診査方法を用いて査定・評価を実施することができる。 			
使用教材 参考文献	<p>系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 看護が見える フィジカルアセスメント (MEDIC MEDIA) 実践するヘルスアセスメント (GaKKen)</p>			
評価方法	<p>終講試験 出席状況 学習態度 (聴講の姿勢 課題提出状況 小テスト など)</p>			
講義時間	授 業 要 目	授 業 内 容		授業形態
1時間	1. 全身状態・ 全体印象の把握	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の全体を概観する 2. 「全体」とは何をどのようにみるのか 		講義
2時間	2. バイタルサインの 観察とアセスメント バイタルサイン測定 演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサイン測定の意義 ①体温 ②脈拍 ③呼吸 ④血圧 ⑤意識 2. それぞれのメカニズムと環境因子 3. それぞれの測定ポイントと測定方法 4. デモストレーション 5. 学生同士での演習 		事前学習 講義 演習
2時間	3.フィジカル・ アセスメントとは 4.呼吸器のフィジカル アセスメント 演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントとは 2. フィジカルアセスメントの原則と基本技術 1. 呼吸調節のメカニズムと環境因子 2. 呼吸の正常と種類 3. 測定ポイントと測定方法 4. 呼吸のアセスメント 事例:問診・視診・触診・打診・聴診 5. 学生同士での演習 		講義 DVD 演習
2時間	5.循環器のフィジカル アセスメント 演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心臓・血管系のフィジカルアセスメントの根拠 〈解剖と生理〉 2. 心臓・血管系のフィジカルアセスメントの実際 問診・視診・触診・打診・聴診 3. 学生同士での演習 		事前学習 講義 DVD 演習
2時間	6. 腹部のフィジカル アセスメント 演習 7. 意識のフィジカル アセスメント 演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腹部のフィジカルアセスメントの実際 問診・視診・聴診・打診・触診 2. 学生同士での演習 1. 意識を観察する目的と日常の観察の重要性 2. 評価スケール(JCS,GCS) 3. 痛み刺激 4. 瞳孔と対光反射の観察 5. 学生同士での演習 		講義 DVD 演習
2時間	8. その他のフィジカル アセスメント	乳房・筋・骨格系・頭頸部・感覚器のフィジカルアセスメント方法を理解する。		DVD
3時間	9.フィジカル イグザミネーション 実際	実習・臨床場面を想定して、フィジコちゃんモデル人形でフィジカルアセスメント演習を行う		演習
1時間		終講試験		

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
基礎看護学方法論Ⅲ	1年次	1単位	30時間	小 菌 純 子
科目目標	1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと調整について理解できる。 2. 対象の栄養状態、食欲・摂食能力のアセスメント、食事介助の効果的な方法や摂食・嚥下訓練、非経口的栄養摂取の具体的な方法を理解し、安全な援助ができる。 3. 排泄のメカニズムとアセスメント、援助の方法を理解し、排泄への援助ができる。 4. 姿勢の基礎知識と体位、ボディメカニクスを理解し、安全な移乗や移送の援助ができる。 5. 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠障害を持つ患者への援助が理解できる。 6. 清潔援助の効果と全身への影響を理解し、病床での清潔保持、衣生活への援助ができる。			
使用教材	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ ・ 基礎看護学④ 臨床看護総論 (医学書院)			
評価方法	授業態度、出席状況、小テスト、終講テスト			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
2時間	オリエンテーション 1. 環境調整技術	適切な技術習得のために 1. 療養生活の環境、アセスメントと調整 2. ベッド周囲の環境整備 3. 病床を整える		講 義
6時間	2. 食事援助技術	1. 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 2. 医療施設で提供される食事の種類と形態 3. 食事摂取の介助 4. 摂食・嚥下訓練 5. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法		講 義 演 習
6時間	3. 排泄援助技術	1. 自然排尿および自然排便の基礎知識 2. 介助の実際 1) トイレ 2) 床上 3) おむつ 3. 導尿 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿 4. 排便を促す援助の基礎知識 1) アセスメント 2) 浣腸 3) 摘便 5. ストーマケア		講 義 演 習
6時間	4. 活動・休息援助技術	1. 基本的活動の基礎知識 1) よい姿勢 2) 体位 3) 移動(体位変換・歩行・移乗・移送) 2. 睡眠・休息の基礎知識 1) 睡眠の種類とメカニズム 2) 睡眠障害のアセスメント 3) 睡眠・休息を促す援助		講 義 演 習
2時間	5. 苦痛の緩和・安楽確保の技術	1. 体位変換、電法 2. 身体ケアを通じてもたらされる安楽の援助		講 義
6時間	6. 清潔・衣生活援助技術	1. 清潔の援助の基礎知識 2. 清潔の援助の実際 1) 入浴・シャワー浴 2) 清拭 3) 洗髪 4) 手浴 5) 足浴とフットケア 6) 陰部洗浄 7) 整容 8) 口腔ケア 3. 病床での衣生活の援助の基礎知識 4. 病床での衣生活の援助の実際 1) 病衣の選び方 2) 病衣・寝衣の交換 3) 輸液ラインが入っている場合の注意点		講 義 演 習
2時間	7. まとめ	終講テスト		

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
基礎看護学方法論Ⅳ	1年次	1単位	45時間	安永 澄子
科目目標	検査、与薬、穿刺、洗浄等の目的を理解し、検査・治療を受ける患者への看護技術を習得する 1. 呼吸・循環を整える技術を理解する 2. 与薬の技術を安全に実施できる 3. 検査に関する基礎知識を習得する 4. 感染防止の技術を安全に実施できる			
使用教材 参考文献	医学書院 系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座専門Ⅰ 臨床看護総論			
評価方法	授業態度、テスト			
講義時間	授業要目	授業内容	授業形態	
10	1. 感染防止の技術	1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策 3) 感染経路別予防策 4) 洗浄・消毒・滅菌 5) 無菌操作 6) 感染性廃棄物の取り扱い 7) カテーテル関連血流感染対策 8) 針刺し防止策	講義 DVD 演習	
6	2. 安全確保の技術	1) 誤薬防止 2) チューブ類の予定外抜去防止 3) 患者誤認防止 4) 転倒転落防止	講義	
6	3. 呼吸・循環を整える技術	1) 酸素吸入・吸引・排痰ケア 2) 排痰ケア・人工呼吸療法 3) 循環促進・体温管理	講義 DVD 演習	
8	4. 与薬の技術	1) 経口与薬・吸入・点眼・点鼻 2) 経皮的与薬・直腸内与薬 3) 注射・輸血管理	講義 DVD 演習	
4	5. 症状・生体機能管理技術	1) 検体検査 2) 生体情報モニタリング	講義	
4	6. 診察・検査・処置の介助技術	1) 診察の介助 2) 検査・処置の介助	講義 演習	
4	7. 創傷管理技術	1) 創傷管理の基礎知識 2) 創傷処置	講義	
2	8. 演習	吸引、酸素吸入	演習	
1	終講試験			

引用・参考図書

- ① 看護技術プラクティス[第4版] 2019年10月10日第1刷 学研
- ② 実習で使える看護技術アドバンス 2017年10月10日 初版第1刷 インターメディカ
- ③ 写真でわかる 臨床看護技術アドバンス2 2016年12月10日 初版第1刷 インターメディカ
- ④ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 2014年4月1日 第1版第2刷 医学書院

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
基礎看護方法論Ⅴ	1年次	1単位	30時間	下登孝子
科目目標	1. 健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護を理解する。 2. 健康状態の経過に基づく看護について理解する。 3. 主要な症状を示す対象者への看護を理解する。 4. 治療・処置を受ける対象者への看護を理解する。 5. 医療機器の原理と実際を理解する。			
使用教材 参考文献	基礎看護学4:臨床看護総論(医学書院)、外科総論・各論(医学書院)、基礎看護学3:基礎看護技術Ⅱ(医学書院)、看護技術プラクティス(学研)			
評価方法	小テスト、授業態度、終講試験			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
4時間	1. 健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	1.ライフ・サイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ		講義
		2.家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ		
		3.生活と療養の場からとらえた対象と家族の健康上のニーズ		
4時間	2. 健康状態の経過に基づく看護	1.健康状態と看護		講義
		2.健康の維持増進をめざす看護		
		3.急性期における看護		
		4.慢性期における看護		
		5.リハビリテーション期における看護		
		6.終末期における看護		
6時間	3. 主要な症状を示す対象者への看護	1.循環に関連する症状を示す患者への看護		講義
		2.認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護		
		3.栄養・代謝に関連する症状を示す対象者の看護		
		4.コーピングに関連する症状を示す対象者への看護		
		5.安全や生態防御機能に関連する症状を示す対象者への看護		
		6.安楽に関連する症状を示す対象者への看護		
8時間	4. 治療・処置を受ける対象者への看護	1.化学療法を受ける対象者への看護		講義
		2.放射線療法を受ける対象者への看護		
		3.手術療法を受ける対象者への看護		
		4.集中治療を受ける対象者への看護		
		* 救命・救急処置		
		* 死の看取りの看護		
2時間	5. 医療機器の原理と実際			講義
4時間	事例による看護実践の展開			グループワーク
2時間	終講試験			

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
基礎看護学方法論Ⅵ	2年次	1	45	渡司 美鈴
科目目標	1. 看護の知識体系と経験に基づき人々の健康上の問題を見つめる 2. 看護理論や看護モデルに沿った看護実践の体系を身につける 3. 問題解決へ向けて動的に循環しらせん状に進行する看護過程の5つのステップを、事例に沿って考える 4. 看護過程によって導き出された援助を、対象の具体的な状況を想定して安全安楽に実施する			
使用教材 参考文献	1. 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院出版） 2. ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント 第3版 3. 看護診断ハンドブック第11版 4. 基準看護計画 第3版			
評価方法	看護過程・グループワーク・演習			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
2時間	オリエンテーション	① 看護過程および演習の進め方 ② 評価表および評価基準について ③ 事例提示・読み合わせ・状況等の解説 ④ 情報の分類・選別 ⑤ 対象に必要な援助（カンファレンス）		講義 演習 グループワーク
14時間	事例展開（看護過程）	1) 情報収集 ① 情報収集 ② 情報の分類 ③ Sデータ・Oデータの記載 ④ 個人情報と守秘義務 2) フィジカルアセスメントと症状の観察 3) 検査データ・生体検査		講義 演習 グループワーク
	アセスメント	1) 解釈分析 2) 看護上の問題点 3) 看護診断 4) 問題リストの作成		講義 演習
14時間	看護計画立案	1) 長期目標・短期目標の設定 2) OP・TP・EPの立案 3) 根拠の確認		講義 演習 グループワーク
	1日の援助計画立案と援助の実施	1) 援助目標・援助計画立案 2) 日常生活援助の実践 3) 実施・結果・評価・考察		演習 グループワーク
4時間	リフレクション	1) 演習記録のふりかえり 2) 患者役からのフィードバック（カンファレンス）		演習 グループワーク
8時間	評価・修正	1) 評価 2) テーマカンファレンス		演習 グループワーク
2時間	まとめ	1) ポートフォリオ 2) カンファレンス		演習 グループワーク
総合評価	看護過程および演習記録評価・グループワーク評価			

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
基礎看護学実習	2年次	2単位	90時間	西山りか
科目目標 及び 授業計画	<p>I. 目的 対象を取り巻く環境と看護活動の実際を知り、対象の個性に応じた看護過程の展開技術を習得する。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入院生活における対象の問題点を身体的・精神的・社会的側面から総合的に捉 2. 対象のもつ看護上の問題を明確にし、科学的思考に基づいた日常生活援助を実践することができる。 3. 健康に障害のある対象を理解し、個性に応じた看護過程の展開技術を習得できる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員としての自覚ができる。 5. 問題意識を持ち、主体的に学習に取り組む態度を身につける。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害により日常生活に支障のある成人・老人の日常生活の援助を行う。 2. 1人の対象を受け持ち、看護過程の展開を行う。 看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの技術 2) 対象把握の技術(ヘルスアセスメント) 3) 日常生活を支える援助技術 4) 診療の補助技術 5) 臨床看護技術 <p>IV. 実習施設</p> <p>社会医療法人 青雲会 青雲会病院</p> <p>鹿児島医療生活協同組合 国分生協病院</p>			
履修要件	既習の専門分野 I の単位を取得していること。			
授業の 進め方	基礎看護学実習要項に基づき実習を行う。			
評価方法	出席状況, 看護実践状況, 実習記録, 規定の評価表に基づく			

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
成人看護学概論	1年次	1単位	30時間	下登孝子
科目目標	1. 成人の生活と健康について理解する。 2. 成人看護の基本となる考え方や方法論について理解する。 3. 成人のさまざまな健康レベルに対応した看護について理解する。 4. 成人の健康生活を回復・維持・促進するための具体的な看護技術について理解する。			
使用教材 参考文献	成人看護学1:成人看護学総論(医学書院)、成人看護学概論(メディカ出版)			
評価方法	小テスト、授業態度、終講試験			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
6時間	1. 成人の生活と健康	1. 成人と生活		講義・グループワーク
		2. 生活と健康		
8時間	2. 成人看護の基本となる考え方	1. 成人への看護アプローチの基本		講義
		2. ヘルスプロモーションと看護		
		3. 健康をおびやかす要因と看護		
4時間	1. 成人の健康レベルに対応した看護	1. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護		講義
		2. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護		
		3. 障害がある人の生活とリハビリテーション		
		4. 人生の最期のときを支える看護		
10時間	2. 成人の健康生活を促すための看護技術	1. 学習者である患者への看護技術		講義
		2. 治療過程にある患者への看護技術		
		3. 症状マネジメントにおける看護技術		
		4. 退院支援の看護技術		
		5. がんと共生を促す看護技術		
		6. 新たな治療法、先端医療と看護		
2時間	終講試験			

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
成人看護学援助論 I	2年次	1単位	30時間	佐藤玲子・今吉和子
科目目標	1. 循環器に関連する疾患を持ち、その機能に障害のある患者に対する看護を学ぶ			
	2. 腎・泌尿器に関連する疾患を持ち、その機能に障害のある患者に対する看護を学ぶ			
使用教材 参考文献	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器、病気が見える(メデックメデカ)			
	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器、病気が見える(メデックメデカ)			
評価方法	授業態度、終講試験			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
14時間	1)循環器系の疾患と看護	1. 症状に対する看護 1)胸痛 2. 検査を受ける患者の看護 1)心臓カテーテル法 2)心電図検査 3)血行動態モニタリング 3. 治療・処置を受ける患者の看護 1)薬物療法 2)手術前・手術直後・回復期 3)冠状動脈バイパス術 4)弁置換術 4. 虚血性心疾患患者の看護 1)心筋梗塞 2)狭心症 3)心不全 4)ペースメーカー装着 5)弁膜症 6)先天性心疾患 7)動脈・静脈系疾患 5. 心臓リハビリテーションと看護		講義
14時間	2)腎・泌尿器系疾患と看護	1. 症状に対する看護 1)排尿障害 2)腎生検 2. 検査を受ける患者の看護 1)血管造影 2)内視鏡 3)生検 3. 治療・処置を受ける患者の看護 1)ステロイド療法 2)食事療法 4. 糸球体疾患患者の看護 5. 膀胱・前立腺・腎臓の手術を受ける患者の看護		講義
2時間	まとめ・総合評価	終講試験		各分野1時間

シラバス

今吉和子 病院にて看護師として実務経験あり
下登孝子 病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
成人看護学援助論 I	2年次	1単位	30時間	今吉和子・下登孝子
科目目標	1. 血液・造血器に関連する疾患を持ち、その機能に障害のある患者に対する看護を学ぶ			
	2. 内分泌・代謝に関連する疾患を持ち、その機能に障害のある患者に対する看護を学ぶ			
使用教材 参考文献	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血、病気が見える(メデックメデカ)			
	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝、病気が見える(メデックメデカ)			
評価方法	授業態度、終講試験			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
2時間	1. 血液・造血器の看護を学ぶにあたって	1) 医療の動向		講義
		2) 患者の特徴と看護の役割		
2時間	2. 血液の生理と造血のしくみ	1) 血液の成分と機能		講義
		2) 造血のしくみ		
2時間	3. 検査・診断と症候・病態生理	1) 病歴と身体所見、検査		講義
		2) 症候と病態生理		
4時間	4. 疾患と治療の理解	1) 赤血球系の異常		講義
		2) 白血球系の異常		
		3) 造血器の腫瘍		
		4) 出血性の疾患		
4時間	5. 患者の看護	1) 主要症状を有する患者の看護		講義
		2) 検査を受ける患者の看護		
		3) 造血器腫瘍患者の看護		
2時間	6. 内分泌・代謝の概要	1. 看護を学ぶにあたって		講義・VTR・演習
6時間	7. 内分泌疾患患者の看護	1. 下垂体疾患患者の看護		
		2. 甲状腺疾患患者の看護		
		3. 副甲状腺・副腎疾患患者の看護		
6時間	8. 代謝疾患患者の看護	1. 糖尿病とは		
		2. 糖尿病患者の看護		
		3. 脂質異常症・肥満症の患者の看護		
2時間	終講試験	血液造血・内分泌各1時間		

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
成人看護学援助論Ⅱ	1年次	1単位	30時間	下登孝子
科目目標	1. 疾患の経過と看護について理解する。 2. 症状のある患者の看護について理解する。 3. 検査を受ける患者の看護について理解する。 4. 治療・処置を受ける患者の看護について理解する。 5. 疾患を持つ患者の看護について理解する			
使用教材 参考文献	成人看護学2:呼吸器(医学書院)、成人看護学3:循環器(医学書院)、成人看護学 5:消化器(医学書院)、病気が見える(メテックメディカ)			
評価方法	小テスト、授業態度(欠席・遅刻を含む)、終講試験			
講義時間	授業要目	授業内容	授業形態	
14時間	Ⅰ. 消化器の看護	1. 消化器の看護を学ぶにあたって	講義、小テスト DVD	
		2. 食道疾患の看護 (食道癌、胃食道逆流症)		
		3. 胃・十二指腸疾患患者の看護 (胃・十二指腸潰瘍、胃癌)		
		4. 腸・腹膜疾患の看護 (潰瘍性大腸炎、Crohn病、イレウス)		
		5. 大腸癌、ストーマケア		
		6. 肝臓・胆のう疾患の看護 (肝炎、肝硬変、肝癌、胆石症)		
		7. 膵臓疾患患者の看護 (膵炎、膵癌)		
14時間	Ⅱ. 呼吸器の看護	1. 看護を学ぶに当たって	講義、小テスト DVD	
		2. 感染症の看護 (肺炎、結核)		
		3. 気道疾患の看護 (気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患)		
		4. 肺血栓・塞栓症の看護 急性呼吸窮迫症候群の看護 睡眠時無呼吸症候群患者の看護		
		5. 自然気胸患者の看護		
		6. 肺癌患者の看護		
2時間	終講試験			

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
成人看護学実習	3年次	2単位	90時間	下登 孝子
科目目標 及び 授業計画	<p>I. 目的 成人期にある対象の特徴を理解し、健康段階に応じた問題解決に必要な基礎的知識・技術、態度を習得する。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の身体的・社会的・心理的特徴をとらえ、対象を理解できる。 2. 成人期にある対象の健康上の問題をとりえ、個別性に応じた看護を実践することができる。 3. 急性期・慢性期・終末期にある対象及び家族に対しての看護の実際を学ぶ。 4. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割と責任が認識できる。 5. 保健・医療・福祉との連携・協働を通して、継続看護の必要性を理解できる。 6. 問題意識を持ち、主体的に学習に取り組む態度を身につける。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の区分と発達段階の特徴(急性期・慢性期・終末期) 2. 疾患の病態生理の種類・程度 3. 障害の種類・程度、セルフケア能力のレベル 4. 症状・徴候が及ぼす影響 5. 治療・検査・処置の目的と方法及び安全・安楽を考慮した援助 6. 異常の早期発見の方法 7. 身体の苦痛の緩和 8. 日常生活動作拡大への援助 9. 障害に対する対象・家族の受け止め方 9. 対象・家族への精神的援助 10. 周手術期の看護 11. 慢性疾患を有する患者の看護 12. 終末期にある患者の看護 13. セルフケア能力の向上への援助 14. 対象・家族への生活指導 15. 経済的支援のための制度 16. 健康を支援するための社会資源 <p>IV. 実習施設</p> <p>鹿児島市立病院 社会医療法人 青雲会 青雲会病院</p>			
履修要件	既習の基礎分野, 専門基礎分野, 専門分野 I, 専門分野 II の成人看護学の単位を取得していること。			
授業の 進め方	成人看護学実習要項に基づき実習を行う。			
評価方法	出席状況, 看護実践状況, 実習記録, 規定の評価表に基づいて評価する。			

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
老年看護学概論	1年次	1単位	30時間	小 菌 純 子
科目目標	1. 老いを生きる高齢者のエイジングや発達課題を理解できる。 2. 現在の高齢社会の様相を、統計資料に基づいて説明できる。 3. 高齢者の自立と権利をまもるための社会的制度を理解できる。 4. 老年看護の基本的な考え方を学ぶ。 5. 高齢者の疑似体験を通して、身体面の不自由さと思いに気づくことができる。 6. 身近な地域における介護保険サービスの利用状況やサービス提供機関について理解できる。			
使用教材	老年看護学（医学書院） 生活機能からみた老年看護過程（医学書院） その他 DVD など視聴覚教材			
評価方法	授業態度, 出席状況, 演習, 小テスト, 終講テスト			
講義時間	授業要目	授 業 内 容		授業形態
4時間	第1章 老いるということ, 老いを生きるということ	1. 「老いる」ということ ①老年期の定義・意義 ②加齢に伴う心身の変化 2. 老いを生きる ①老年期の発達と成熟		講 義 DVD
2時間	演習	高齢者疑似体験モデルを用いた演習		演 習
16時間	第2章 超高齢社会と社会保障	1. 超高齢者会の統計について ①超高齢社会の現況 ②高齢者と家族 ③高齢者の健康状態 ④高齢者の死亡 ⑤高齢者の暮らし 2. 高齢社会における福祉の動向 ①保健医療福祉の変遷 ②介護保険制度の整備 ③高齢者医療のしくみ ④高齢者を支える多職種連携 3. 高齢者の権利擁護 ①スティグマ, 差別 ②高齢者虐待 ③身体拘束 ④権利擁護		講 義 DVD グループ ワーク
6時間	第3章 老年看護のなりたち	1. 老年看護の役割 ①老年看護教育の発展 ②老年看護の特徴 2. 老年看護における理論・概念の活用 ①老年看護に役立つ理論		講 義 演 習
2時間	7. まとめ	終講テスト		

シラバス

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
老年看護学援助論 I	2年次	1単位	30時間	紀成子・西山りか
科目目標	1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を知り、特に高齢者に多い運動器・脳・神経疾患について理解する。 2. 疾患の経過に応じた看護について理解できる。			
使用教材 参考文献	運動器 脳・神経 (医学書院) 廣川出版・メディカ出版社・医学評論社			
評価方法	終講試験 出席状況 学習態度 (聴講の姿勢 課題提出状況 発表 小テストなど)			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
4時間	1. 運動器の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 診断・検査と治療処置	1. 骨 3. 神経と筋肉 1. 疼痛 3. 関節運動の異常 5. 異常の歩行 6. 筋肉の障害・その他の障害	2. 関節 4. 腱と靭帯 2. 形態の異常 4. 神経の障害 2. 検査	事前学習 講義
10時間	4. 疾患の理解 5. 患者の看護	1. 外傷性(外因性)の運動器疾患と看護 ① 骨折 ③ 捻挫・打撲 ⑤ 筋・腱・靭帯などの損傷 2. 内因性(非外傷性)の運動器疾患と看護 ①先天性疾患 ③骨腫瘍・軟部腫瘍 ⑤筋・腱の疾患 ⑦上肢・上肢帯の疾患 ⑨下肢・下肢帯の疾患	② 脱臼 ④ 神経の損傷 ②骨・関節の炎症性疾患 ④代謝性疾患 ⑥神経の疾患 ⑧脊椎の疾患 1. 援助のための知識・技術 2. 看護(症状・検査・保存療法・手術・経過別) 3. 疾患を持つ患者の看護	講義
2時間	6. 脳・神経系の構造と機能	神経細胞・脳と脊椎・末梢神経系、髄膜と頭蓋骨血管系、脳脊髄、おもな脳・神経の機能別解剖学		講義
2時間	7. 症状と病態生理 8. 検査・診断と治療	意識障害・高次脳機能障害 他 診断と診察の流れ 検査・治療		講義
10時間	9. 疾患の理解 10. 患者の理解・看護	脳疾患・脊髄疾患・末梢神経障害 神経・筋疾患・脱髄・変性疾患 脳・神経系の感染症・中毒 てんかん・認知症・内科疾患に伴う神経疾患 1. 症状・障害を持つ患者の看護 2. 治療・処置を受ける患者の看護 3. 疾患を持つ患者の看護 他		講義
2時間	総合評価	終講テスト		

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当
老年看護学援助論Ⅱ	2年次	1単位	45時間	安永澄子・清武秀一
科目目標	1 器官系統別の加齢変化のありようが高齢者に特徴的な身体症状が解かる。 2 基本動作を基盤とする生活行為(食事・排泄・清潔)とその展開される生活リズムが理解ができる。 3 生活を円滑に進めるための不可欠なコミュニケーションで高齢者に特有の不具合と援助技術が解かる。 4 健康レベル別に、検査・治療への対応が解かる。 5 認知症やうつ、終末期に求められる看護について学ぶ。 6 地域の諸資源(高齢者施設・在宅サービス機関での看護)、介護予防の展開が解かる。 7 高齢者のリスクマネジメントとして、医療安全、災害看護について学ぶ。			
テキスト 文献	老年看護学(医学書院)・見る診る看る老年看護学(医学評論社) 老年看護の実践、ナーシンググラフィカ(メディカ出版) 老年看護過程(医学書院)			
評価方法	小テスト、終講テスト 授業態度(出席状況)			
講義時間	授業要目	授業内容	授業形態	
8時間	第4章 高齢者のアセスメント A 身体の高齢変化とアセスメント	①看護職が行うフィジカルアセスメントの位置づけ ②外皮系 ③感覚系 ④循環器系 ⑤呼吸器系 ⑥消化器系 ⑦内分泌系 ⑧泌尿器系 ⑨運動器系	小テスト 講義	
	B 高齢者によくみられる身体症状とアセスメント	①発熱 ②痛み ③痙攣(かゆみ) ④脱水 ⑤嘔吐 ⑥浮腫 ⑦倦怠感	講義	
20時間	第5章 高齢者の生活機能を整える看護の展開 A 日常生活を支える基本動作と看護ケア	①基本動作と環境のアセスメントと看護ケア ②転倒のアセスメントと看護ケア ③廃用症候群のアセスメントと看護ケア	講義	
	B 食事と看護ケア	①食事と看護ケア ②高齢者に特徴的な変調 ③摂食・嚥下機能のアセスメント ④食事に対する看護ケア	講義	
	C 排泄と看護ケア	①排泄ケアの基本姿勢 ②排泄障害とその特徴 ③排泄のアセスメントと看護ケア	講義	
	D 清潔と看護ケア	①清潔の意義 ②高齢者に特徴的な変調 ③清潔のアセスメント ④清潔の看護ケア	講義	
	E 生活リズムと看護ケア	①高齢者と生活リズム ②高齢者に特徴的な変調 ③生活リズムのアセスメント ④生活リズムを整える看護ケア	講義	
	F コミュニケーションと看護ケア	①高齢者におけるコミュニケーションの特徴とかわり方 ②高齢者におこりやすいコミュニケーション障害 ③コミュニケーション障害のアセスメント	講義	
8時間	第6章 健康逸脱からの回復と終末期を支える看護の展開 A 検査・治療を受ける高齢者への看護ケア	①検査と看護ケア ②栄養ケア・マネジメント ③薬物療法と看護ケア ④手術療法と看護ケア	講義	
	B 疾患をもつ高齢者への看護ケア	①脳卒中 ②心不全 ③パーキンソン病 ④インフルエンザ ⑤肺炎 ⑥感染性胃腸炎(ノロウイルス) ⑦骨粗しょう症 ⑧骨折 ⑨褥瘡	講義	
	C 認知機能の障害に対する看護ケア D 終末期における看護ケア	①うつ ②せん妄 ③認知症 ①高齢者の死 ②終末期ケアとは	講義	
4時間	第7章 地域資源を活用した看護の展開 A 在宅高齢者への看護 B 保健医療福祉施設における看護	①介護予防と地域づくり ②在宅療養を支えるチームアプローチ連携 ③介護度・医療依存度の高い高齢者への援助 ①急性期治療を担う医療施設の特徴と看護 ②リハビリテーションを担う医療施設の特徴と看護 ③療養生活を支える	講義	
	C 介護家族への看護	①介護家族の生活と健康生活と健康 ②介護家族との協力による援助	講義	
4時間	第8章 高齢者のリスクマネジメント A 高齢者と医療安全	①高齢者と医療事故 ②高齢者特有のリスク要因 ③病院・施設におけるリスクマネジメント ④高齢者みまわれやすい医療事故と対応の実際	講義	
	B 高齢者と救命救急	①救急を受診する高齢者の特徴 ②救命救急場面における看護師の役割	講義	
	C 高齢者と災害看護	①災害と災害看護 ②災害に対する高齢者特有のリスク ③災害のサイクルに伴う看護支援	講義	
4時間	付章 臨地実習前学習・看護過程の展開と実習での学び方のヒント A 看護過程の考え方 B 事例展開の実際 C 臨地実習前の自己学習ノート	①看護過程のの基本 ②高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方 ①事例の状況設定 ②事例の展開	講義	
1時間	総合評価	①実習における学生のヒヤリ・ハット ②実習における報・連・相 テスト用紙 (上記の中から、40問、国試問題)	1、小テスト・出席状況 2、終講テスト	

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当
老年看護学実習	3年次	2単位	90時間	渡司 美鈴
科目目標 及び 授業計画	<p>I:目的 老年期にある対象の特徴を理解し、加齢に伴う変化と健康レベルに応じた看護、健康障害をもつ老年者とその家族に対するQOLを高めるために必要な知識・技術・態度を習得する。</p> <p>II:目標 1. 老年期にある対象の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的に対象をとらえる。 2. 対象の健康状態を把握し、生活行動の及ぼす影響、対象者のエンパワーメントに貢献する環境調整のあり方を踏まえた援助ができる。 3. 老年期にある対象の人生観を尊重し、QOLを考慮した援助ができる。 4. 対象や家族の課題に対応するため社会資源の活用法を理解できる。 5. 保健・医療・福祉チームの一員として看護師の役割と責任が認識できる。</p> <p>III:実習内容 老年期の理解 1. 身体的側面(加齢に伴う身体的変化)・心理・社会的側面 2. 老年期の区分と発達課題 3. 老年期の疾病をめぐる特徴 4. 健康逸脱からの老年期に起こりうる課題 5. 認知症をきたすおもな疾患 6. 認知症の検査・診断・治療・看護と予防 7. 認知症の評価(認知症の評価尺度)質問式・観察式・HDS-R 等 8. 認知症高齢者とのコミュニケーションの基本 9. 認知症高齢者への環境支援のための指針 10. QOLを維持する為の援助と指導(食事・排泄・入浴・睡眠・中核症状・BPSDなど) 11. 認知症高齢者を抱える家族の負担の理解とケア 12. 社会資源の活用と法律・関連諸施策の理解 13. 健康から逸脱した認知症高齢者とその家族に適応した看護過程の展開</p> <p>IV:実習施設 医療法人 仁心会 松下病院</p>			
履修要件	既習の基礎分野, 専門分野, 専門基礎分野, 専門分野 I, 専門分野 II の老年看護学(老年看護援助論)の単位を修得していること。			
授業の 進め方	老年看護学実習要項に基づき実習を行う。			
評価方法	出席状況, 看護実践状況, 規定の評価に基づいて評価する。			

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
小児看護学概論	2年次	1単位	30時間	安永 澄子
科目目標	1. ライフサイクルからみた小児各期の特徴を理解し、成長・発達について機能的側面、精神的側面から学ぶ 2. 小児の健康な発達を支える社会、環境、保健・医療制度の仕組みを理解し、小児看護の役割を学ぶ。			
使用教材	小児看護学①小児看護学概論 (医学書院)			
評価方法	小テスト、終講試験、レポート、出席状況、受講態度考慮して総合的に評価する。			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
4時間	1. 小児看護の特徴と理念	①小児看護の目ざすところ ②小児と家族の諸統計 ③小児看護の変遷 ④小児看護における倫理 ⑤小児看護の課題		講義 資料
4時間	2. 子どもの成長・発達	①成長・発達とは ②成長・発達の進み方 ③成長・発達に影響する因子 ④成長の評価 ⑤発達の評価		講義 資料
2時間	3. 子どもの栄養	①子どもにとっての栄養の意義 ②子どもと食育 ③食事摂取基準 ④発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護		講義 資料 小テスト
4時間	4. 新生児, 乳児	1) 新生児 ①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③各機能の発達 ④養育および看護 2) 乳児 ①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧乳児の養育および看護		講義 資料
4時間	5. 幼児, 学童	1) 幼児 ①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧幼児の養育および看護 2) 学童 ①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③感覚・運動機能 ④知的・情緒機能 ⑤社会的機能 ⑥不適応行動・症状 ⑦学童を取り巻く諸環境 ⑧学童の養育および看護		講義 資料
4時間	6. 思春期, 青年期の子ども	①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③知的・情緒・社会的機能 ④生活の特徴 ⑤心理・社会的適応に関する問題 ⑥飲酒・喫煙 ⑦性に関する健康問題 ⑧反社会的・逸脱行動 ⑨事故・外傷 ⑩思春期の看護		講義 資料
2時間	7. 家族の特徴とアセスメント	①子どもにとっての家族とは ②現代家族の特徴 ③家族アセスメント: 構造的側面, 機能的側面, 発達段階, 家族の役割, さまざまな状況の家族		講義 資料
4時間	8. 子どもと家族を取り巻く社会	①児童福祉: 児童福祉の歴史と現在の児童福祉 ②母子保健: 母子保健の歴史と現在の母子保健 ③医療費の支援 ④予防接種 ⑤学校保健 ⑥特別支援教育 ⑦臓器移植法		講義 資料 小テスト
2時間	終講テスト			

シラバス

病院にて医師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
小児看護学援助論 I	2年次	1単位	30時間	寛山 佳史
科目目標	1. 小児が罹患しやすい疾患の病態・症状・診断・治療の特徴を理解する。			
使用教材 参考文献	小児看護学2:医学書院			
評価方法	終講試験、レポート 学習態度(聴講の姿勢、課題提出状況、発表他)、出席状況			
講義時間	授業要目	授業内容	授業形態	
4時間	1. 消化器疾患と看護 2. 免疫・アレルギー性疾患と看護	1)消化器疾患 1)気管支喘息 2)膠原病 3)アトピー	講義 DVD プリント	
4時間	1. 感染症と看護	1)子どもの感染に関する基本的知識 2)おもな疾患(ウイルス感染症,細菌感染症他)	講義 プリント	
4時間	1. 染色体異常・体内循環により発症する先天異常 2. 新生児の看護	1)染色体異常各論 1)新生児の疾患 2)低出生体重児の疾患	講義 プリント	
4時間	1. 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 2. 血液・造血器疾患と看護 3. 悪性新生物と看護	1)腎糸球体疾患 1)貧血, 出血性疾患 1)おもな悪性新生物(白血病他)	講義 DVD プリント	
4時間	1. 呼吸器疾患と看護 2. 神経疾患と看護	1)呼吸器疾患 1)小児神経疾患	講義 プリント	
4時間	循環器疾患と看護	1)先天性心疾患 2)後天性心疾患	講義 プリント	
4時間	運動器疾患と看護	1)運動器疾患	講義 プリント	
2時間	まとめと総合評価	終講試験		

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
小児看護学援助論Ⅱ	3年次	1単位	30時間	小 菌 純 子
科目目標	1. 健康障害や入院が、子どもと家族に与える影響について理解できる。 2. 子どもの発達段階や病気の経過による看護の特徴について理解できる。 3. 入院・療養の場で必要な日常生活援助や留意点について理解できる。 4. 健康障害を持つ子どもへのコミュニケーション技術を用いた観察方法、アセスメントが理解できる。 5. 子どもへのバイタルサイン測定が実施できる。			
使用教材	小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院） 小児看護学② 小児臨床看護各論（医学書院）			
評価方法	出席状況, 授業態度, 小テスト, 終講テストなど			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
2時間	1. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護	1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護		講義 資料 小テスト
2時間	2. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 在宅療養中の子どもと家族の看護 3) 災害時の子どもと家族の看護		講義 資料
4時間	3. 子どもにおける疾病の経過と看護	1) 慢性期の子どもと家族の看護 2) 急性期の子どもと家族の看護 3) 周手術期の子どもと家族の看護 4) 終末期の子どもと家族の看護		講義 資料
6時間	4. 子どものアセスメント	1) コミュニケーション, バイタルサイン, 身体測定 2) 身体的アセスメント:一般状態, 呼吸, 循環器, 腹部, 筋・骨格系, 神経系, 生殖器, リンパ系など 3) 模型を使った計測演習		講義 資料 演習
6時間	5. 症状を示す子どもの看護	1) 不機嫌・啼泣・痛み 2) 呼吸困難・チアノーゼ・ショック・発熱・けいれん 3) 便秘・脱水・出血・貧血 4) 浮腫・発疹・黄疸 その他		講義 資料 小テスト
6時間	6. 検査・処置を受ける子どもの看護	1) 与薬・輸液・抑制・電法・清潔・経管栄養・排泄ほか 2) 意識障害・呼吸症状緩和・救命処置		講義 資料 小テスト
2時間	7. 障害のある子どもと家族の看護 8. 子どもの虐待と看護	1) 障害のとらえ方, 障害のある子どもと家族の特徴 2) 障害のある子どもと家族の社会的支援 1) 子どもの虐待の現状と対策の経緯 2) 子どもの虐待とは 3) リスク要因と発生予防・早期発見 4) 子どもの虐待に特徴的に見られる状況 5) 求められるケア		講義 資料
2時間	終講テスト			

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
小児看護学実習	3年次	2単位	90時間	小菌 純子
科目目標 及び 授業計画	<p>I. 目的 成長・発達途上にある子どもの特徴を理解し、各期にある子どもとその家族への看護に必要な知識・技術・態度を習得する。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な乳幼児に接し、日常生活の実際を通して子どもを理解できる。 2. 疾患の病態生理を理解し、子どもの成長・発達段階を考慮した全体像がとらえられる。 3. 健康障害をもつ子ども及びその家族に対し、成長・発達に応じた看護を安全に実践できる。 4. 対象を取り巻く保健・医療・福祉チームの連携・協働を通して、小児看護の役割を理解できる。 <p>III. 実習内容</p> <p>小児看護学実習Ⅰ(健康な子ども)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの形態的成長、精神運動機能の発達 2. 保育者および家族関係 3. 子どもの安全を守るために必要な環境(事故防止対策、避難訓練、感染予防対策) 4. 地域の医療機関や保健関係機関との連絡、福祉関係との連絡 5. 健康状態の把握(登園・退園時の連絡)、保護者との連絡体制 6. 発育や発達状態の把握 7. 各生活習慣のしつけについて <p>小児看護学実習Ⅱ(健康を障害された子ども)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患児の成長・発達段階の観察と評価 2. 乳幼児期、学童期、思春期にある子どもの入院に伴う問題と対応(院内学級、保健指導) 3. 子どもの入院に伴う家族の問題 4. 病態生理(疾病、症状、徴候)の理解と、それらが子ども・家族に及ぼす影響 5. 治療方針と治療内容 6. 成長・発達段階に応じた援助 7. 病棟の構造・設備、規則、日課、病棟行事 8. 子どものバイタルサイン測定及び身体測定 9. 子どもに起こりやすい事故の把握 10. 院内感染の予防 11. 検査・治療を安全安楽に受けられる援助 12. 子どもの継続看護における看護者の役割、他職種連携 13. 社会資源の活用(小児慢性特定疾病医療費助成) <p>IV. 実習施設</p> <p>小児看護学実習Ⅰ(健康な子ども) 準人認定こども園</p> <p>小児看護学実習Ⅱ(健康を障害された子ども) 鹿児島市立病院 小児科病棟</p>			
履修要件	既習の基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ(小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ)の単位を修得していること			
授業の 進め方	小児看護学実習要項に基づき実習を行う			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、既定の評価法に基づく			

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
母性看護学概論	2年次	1単位	30時間	徳永 美代子
科目目標	1. 母性看護のと基盤となる概念について理解できる。 2. 看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解し、看護の課題や役割を考える。 3. 対象の特性をふまえたうえで、対象者のアセスメントと看護実践について理解できる。 4. 女性のライフステージ各期における看護と、その必要性を理解する。 5. 女性の生涯を通じた健康の保持増進、リプロダクティブヘルスケアについて理解できる。			
使用教材 参考文献	母性看護学概論（医学書院，メディカルフレンド社） 母性看護実践の基本（MCメディカ出版）			
評価方法	終講試験・出席状況・レポート			
講義時間	授業要目	授業内容	授業形態	
6時間	1. 母性看護の基盤となる概念	1) 母性とは 父性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルス/ライツ 5) ヘルスプロモーション 6) 母性看護のあり方	講義	
4時間	2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	7) 母性看護における安全・事故防止 1) 母性看護の歴史的変遷と現状 2) 母子看護の対象を取り巻く環境	事例グループワーク 講義	
4時間	3. 母性看護の対象理解	1) 女性のライフサイクルにおける形態機能の変化 2) 女性のライフサイクルと家族 3) 女性の発達・成熟・継承	講義	
6時間	4. 母性看護に必要な看護技術	1) 母性看護における看護過程 2) 情報収集・アセスメント技術 3) 母性看護に使われる看護技術	講義 事例 VTR	
4時間	5. 女性のライフステージ各期における看護	1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2) 思春期の健康と看護 3) 成熟期の健康と看護 4) 更年期の健康と看護 5) 老年期の健康と看護	講義	
4時間	6) リプロダクティブヘルスケア	1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 人口妊娠中絶と看護 4) 喫煙女性の健康と看護 5) 性暴力を受けた女性に対する看護 6) HIVに感染した女性に対する看護	講義 事例グループワーク	
2時間	7) まとめと総合評価	1) 終講試験		

シラバス

病院にて助産師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
母性看護学援助論Ⅰ	2年次	1単位	45時間	平田 美雪・森 琴美
科目目標 及び 授業計画	1. 子供を産み育てるにあたり生じる遺伝および不妊について理解する。 2. 妊娠期の身体的変化、心理・社会的変化を理解し、妊婦の保健指導を含めた看護について学ぶ。 3. 分娩期の経過に伴う身体的変化および、心理・社会的変化を理解し、アセスメントの視点とその援助について学ぶ。 4. 新生児期における胎外生活適応現象について理解し、適応を促進させるための援助を安全に実施できる。 5. 産褥期の身体的変化、心理・社会的変化を理解し、保健指導を含めた看護を学ぶ。			
使用教材	医学書院 系統看護学講座専門2 母性看護学各論 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 母性看護学 母性看護技術 医歯薬出版株式会社 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版			
評価方法	授業態度 出席状況 終講テスト			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
4	母性の発揮を促す看護	遺伝相談 不妊治療と看護		講義
10	妊娠期における看護	妊娠期の身体的特性 妊娠期の心理・社会的特性 妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と家族の看護		講義
10	分娩期における看護	分娩の要素 分娩の経過 産婦・胎児、家族のアセスメント 産婦と家族の看護 分娩期の看護の実際		講義
10	新生児期における看護	新生児の生理 新生児のアセスメント 新生児の看護		講義 沐浴演習
6	産褥期における看護	産褥経過 産褥のアセスメント 産褥と家族の看護 施設退院後の看護		講義
2	事例展開	妊娠期のアセスメント		講義
2	事例展開	分娩期のアセスメント 産褥期のアセスメント		講義
1	テスト	終講テスト		テスト

シラバス 病院にて看護師・助産師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
母性看護援助論Ⅱ	2年次	1単位	15時間	森 琴美
科目目標	妊娠・分娩・新生児・産褥期の異常とその看護について理解する。 1. 妊娠の異常と看護ではハイリスク妊娠・妊娠期に注意すべき感染症、妊娠高血症などの看護を学ぶ。 2. 分娩の異常と看護では分娩経過における異常・看護上の問題について学ぶ。 3. 分娩の3要素にみられる異常、胎児付属物の異常、胎児付属物の異常分娩時の損傷、産科での処置手術に伴う問題について理解する。 4. 新生児の異常と看護では、新生児仮死・分娩外傷・低出生体重児・高ビリルビン血症など新生児の異常とその診断、アセスメント、医学的管理、看護について学ぶ。 5. 精神障害を合併した女性の結婚・妊娠に対するソーシャルサポートヘルスマンタルについて理解する。			
使用教材 参考文献	母性看護学〔Ⅱ〕母性看護学各論(医学書院)			
評価方法	出席状況・授業態度・終講テスト			
講義時間	授業項目	授業内容	授業形態	
4時間	I. 妊娠の異常と看護	1)ハイリスク妊娠 2)妊娠期の感染症妊娠感染症 3)妊娠疾患 4)多胎妊娠 5)妊娠持続期間の異常 6)子宮外妊娠 7)ハイリスク妊婦の看護	講義	
6時間	Ⅱ. 分娩の異常と看護	1)産道の異常 2)娩出力の異常 3)胎児の異常による分娩障害 4)胎児の附属物の異常 5)分娩時の損傷 6)分娩3期および分娩直後の異常 7)分娩時異常出血 8)産科処置と産科手術 9)異常のある産婦の看護 10)異常分娩看護時の産婦の看護 11)分娩時異常出血のある産婦の看護	講義	
2時間	Ⅲ. 新生児の異常と看護	1)新生児仮死 2)分娩外傷 3)低出生体重児 4)高ビリルビン血症	講義	
2時間	Ⅳ. 産褥の異常と看護	1)子宮復古不全 2)産褥期の発熱 3)産褥血栓症 4)精神障害 5)異常のある産婦の看護	講義	
	Ⅴ. 精神障害合併妊婦と家族の看護	1)精神障害の増悪の影響因子 2)精神障害と妊娠への影響 3)治療および看護	講義	
1時間	Ⅵ. まとめ・テスト	1)終講テスト・まとめ	テスト	

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
母性看護学実習	3年次	2単位	90時間	徳永 美代子
科目目標 及び 授業計画	<p>I. 目的 母性看護の対象の特徴を理解し、周産期の対象に応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦の生理的変化および心理的・社会的特徴を理解し、健康を保つための健康診査・保健指導の必要性がわかる。 2. 正常な分娩経過について理解し、経過に応じた援助を学ぶ。 3. 産褥の経過を理解し、産褥経過に適した看護を学ぶ。 4. 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活への適応に向けての援助ができる。 5. 生命の神秘性・尊厳について考え、自己の母性(父性)観を深める。 6. 地域に暮らす母子に必要な健康支援を理解することができる。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の生理的な変化 2. 妊娠期の心理・社会的特徴 3. 妊婦検診の目的・方法・保健指導 4. 正常な分娩経過 5. 分娩各期の看護 6. 新生児の生理的特徴 7. 胎外生活適応のための援助 8. 産褥の生理的変化 9. 産褥の心理・社会的特徴 10. 産褥期の経過に応じた援助 11. 母子の生活支援のための社会支援と制度 <p>IV. 実習施設</p> <p>市立病院の産科病棟 市立病院の産科外来 みつお産婦人科</p>			
履修要件	既習の基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱの母性看護学の単位を取得していること			
授業の 進め方	母性看護学実習要項に基づき実習を行う。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、規定の評価表に基づき、評価する。			

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単 位	時間数	担 当 者
精神看護学概論	1年次	1単位	30時間	清武 秀一
科目目標	すべてのライフサイクルにおける心の健康に焦点を当て、心の発達を理解、心の働きを知るための理論や方法、心の健康の維持増進を図るための援助について学ぶ。 1. 人間の心の発達及び心と精神の健康に関連する要因を理解する。 2. 心の健康を維持するために、保健・医療・福祉活動と看護の役割について理解する。 3. 心の問題・精神障害とそれに伴う健康上の問題について理解し、対象と家族に対する看護の方法を理解する。 4. 精神障害に対する歴史や社会的背景を知り、患者を1人の人間として尊重する態度を養う。			
テキスト文献	ナーシング・グラフィカ精神看護学①情緒発達と看護の基本 ナーシング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践 国民衛生の動向			
評価方法	出席状況、授業態度、終講テストなど			
講義時間	授 業 要 目	授 業 内 容	授 業 形 態	
2時間	①-1 精神障害の基本的な考え方	1 こころの健康とは 2 障害のとらえ方 3 社会の変化とメンタルヘルス 4 精神障害が生じるきっかけとプロセス 5 対象理解の難しさ 6 精神障害とともに生きるということ	・講義	
4時間	①-2 人間のこころと行動	1 人のこころのさまざまな理解 2 こころと環境	・講義	
2時間	①-3 人格の発達と情緒体験	1 対象関係論の立場から 2 対象との出会い 3 母子関係の発展	・講義	
6時間	①-4 人生各期の発達課題: ライフサイクルとメンタルヘルス	1 ライフサイクルとストレス 2 ライフサイクル各期における特徴と危機	・講義	
6時間	①-5 現代社会とこころ	1 現代社会の特徴 2 現代社会とこころの問題 3 現代社会と親 4 現代社会と子ども	・講義 ・ビデオ	
6時間	①-10 精神医療の歴史と看護	1 古代から中世までの精神医療 2 鎖からの解放とモラルトリートメント 3 近代の精神医療 4 20世紀の精神医療 5 日本の20世紀の精神医療	・講義	
2時間	①-11 精神保健医療福祉をめぐる法律	1 精神保健医療に関わる法制度の変遷 2 精神保健福祉法の基本的な考え方 3 精神保健福祉法による入院形態	・講義 ・ビデオ	
2時間	終講テストとまとめ	終講テストとまとめ		

シラバス

松下兼介	病院にて医師として実務経験あり
松下兼宗	病院にて医師として実務経験あり
小園純子	病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
精神看護学援助論 I	2年次	1単位	30時間	松下 兼介・松下 兼宗・小園 純子
科目目標	1. 精神障害の特徴や主な精神障害の原因、病態生理、診断、検査、治療について理解し、援助に活かせるよう学ぶ。 2. 精神障害を持つ対象の理解、関わり方について学ぶ。			
使用教材	精神看護学①「情緒発達と看護の基本」、精神看護学②「精神障害と看護の実践」(メディカ出版)			
評価方法	出席状況、授業態度、レポート、小テスト、終講テストなど			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
10時間	テキスト② 第1章 精神症状と精神疾患	1, 精神症状総論 2, 神経発達症 3, 統合失調症 4, 抑うつ障害と双極性障害 5, 不安障害 6, 強迫性障害 7, ストレス因関連障害 8, 解離性障害	9, 身体症状および関連症 10, 摂食障害 11, 睡眠-覚醒障害 12, 物質関連障害 13, 神経認知障害 14, パーソナリティ障害 15, 身体疾患と精神症状	講義
2時間	テキスト② 第2章 医学的検査と心理検査	1. 医学的検査 2. 心理検査		講義
2時間	テキスト② 第3章 精神科での治療	1, 精神科における治療の特徴 2, 薬物療法 3, 精神療法 4, 社会療法 5, 電気けいれん療法		講義
2時間	テキスト① 第7章 家族とその支援	1, 家族とは何か 2, 家族を見る視点 3, 家族の課題 4, 精神疾患と家族		講義 資料 小テスト
2時間	テキスト① 第12章 ストレスマネジメント	1. 看護師のストレスマネジメント 2. 精神看護にかかわる資格認定		講義 資料
4時間	テキスト② 第4章 精神科看護における対象の理解	1. 精神科での援助におけるアセスメントの視点 2. 治療の場の人間関係		講義・資料
2時間	テキスト② 第5章 精神科看護におけるケアの方法	1. 服薬治療にかかわる援助 2. 抗精神病薬の特徴、薬物療法の看護		講義 資料
4時間	テキスト② 第6章 入院環境と治療的アプローチ	1. 治療の場としての精神科病棟 2. 治療的環境をととのえる 3. 精神科でのミーティング:事例から考える		講義 資料 小テスト
2時間	終講テスト			

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単 位	時間数	担 当 者
精神看護学援助論Ⅱ	2年次	1単位	30時間	清武 秀一
科目目標	看護師・患者関係の成立・発展の必要性を理解し、健康障害の状態に応じた援助方法について学ぶ。 1. 人間の心の発達及び心と精神の健康に関連する要因を理解する。 2. 心の健康を維持するために、保健・医療・福祉活動と看護の役割について理解する。 3. 心の問題・精神障がいとそれに伴う健康上の問題について理解し、対象と家族に対する看護の方法を理解する。 4. 精神障がいに対する歴史や社会的背景を知り、患者を1人の人間として尊重する態度を養う。			
テキスト文献	ナーシング・グラフィカ精神看護学①情緒発達と看護の基本 ナーシング・グラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実践 国民衛生の動向			
評価方法	出席状況、授業態度、終講テストなど			
講義時間	授 業 要 目	授 業 内 容		授 業 形 態
2時間	②-5 精神科看護におけるケアの方法	1 「治療的関わり」の考え方 2 日常生活行動の援助		・講義
4時間	②-7 精神保健活動とリハビリテーション	1 精神科リハビリテーションの考え方 2 地域精神保健活動における社会資源の活用 3 在宅医療との連携		・講義 ・小テスト
4時間	②-8 救急医療現場における患者支援と精神的関わり	1 自殺企図により救急搬送される患者 2 急性薬物中毒で救急搬送される患者		・講義 ・小テスト
14時間	②-9 事例に学ぶ看護の実際	1 統合失調症(急性期)患者の看護の実際 2 統合失調症(慢性期)患者の看護の実際 3 パーソナリティ障害患者の看護の実際 4 うつ病患者の看護の実際 5 パニック障害患者の看護の実際 6 摂食障害患者の看護の実際 7 被虐待児症候群、解離性障害患者の看護の実際		・講義 ・小テスト ・看護過程(事例展開) ・ビデオ
1時間	①-6 ストレスに対する身体的反応—心身症	1 心身症とは 2 心身症の病態 3 心身症を有する患者の性格傾向 4 心身症の例 5 心身症の患者への看護		・講義 ・小テスト
1時間	①-8 嗜癖と依存	1 依存のとらえ方 2 アルコール依存症(アルコール使用障害) 3 逸脱行動と「烙印」 4 アルコール依存症の治療・看護 5 薬物依存症の看護		・講義 ・小テスト
2時間	①-9 看護の倫理と人権擁護	1 精神科医療におけるアドボカシーの必要性 2 生活の場としての治療環境 3 さまざまな拘束の形と看護師による関わり 4 援助者・被援助者のあるべき関係 5 地域生活における権利擁護		
2時間	終講テストとまとめ	終講テストとまとめ		

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単 位	時間数	担 当 者
精神看護学実習	3年次	2単位	90時間	清武 秀一
科目目標 および 授業計画	<p>I. 目的 精神科病棟および地域で生活する精神を障がいされた人々とその家族を理解する。 また、精神科病棟および地域の施設における精神に障がいのある対象の看護に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障がいのある対象およびその家族を理解する。 2. 精神科病棟に入院している対象の看護を理解する。 3. 地域で生活している精神に障がいのある対象の看護の役割を学ぶ。 4. 保健・医療・福祉チームにおける各職種の役割を理解するとともに、チームにおける看護の役割について考える。 5. 自己の内面の変化に気づき、自己洞察をする。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象理解 2. 多様な価値観の受容 3. 治療環境 4. 生活環境調整の目的の確認と実施 5. 治療的コミュニケーション技法の活用 6. ラポールの形成から信頼関係の確立 7. 対象・学生・スタッフ間の人間関係の成立・発展 8. 対人関係理論と実践の統合 9. 精神科におけるSOAP記録 10. 治療の目的と看護 11. 検査の目的と看護 12. 施設・保護室隔離・行動制限の必要性 13. 事故防止(自殺、自傷他害、離院、放火)に対する管理体制 14. 精神保健福祉対策の実際、社会資源 15. ホスピタリズムとノーマライゼーション 16. プロセスレコードによる看護場面の再構成 17. 自己洞察と他者理解 18. デイケアの位置づけ・歴史・目的 19. デイケアの対象者とデイケアの治療的機能 20. デイケアの活動内容と看護の役割 21. 対象・学生・スタッフ間の人間関係の成立・発展 22. 通所者のセルフケア能力の評価 23. 通所者のセルフケア能力拡大に向けての援助 24. 社会資源の現状と活用方法 25. 保健・医療・福祉チームの役割 26. 継続看護の必要性の理解 27. 実習目標に沿った計画・実施・評価 <p>IV. 実習施設 県立始良病院 医療法人仁心会松下病院デイケアセンター</p>			
履修要件	既習の基礎分野, 専門基礎分野, 専門分野Ⅰ, 専門分野Ⅱの精神看護学の単位を取得していること。			
授業の 進め方	精神看護学実習要項に基づき実習を行う。			
評価方法	出席状況, 看護実践状況, 実習記録, 規定の評価に基づいて評価する。			

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
在宅看護概論	2年次	1単位	30時間	西山 りか
科目目標	1 在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念について理解する。 2 地域で生活しながら療養する人々とその家族の特徴を理解する。 3 地域で生活する・療養する人とその家族を支える法・制度・社会資源について理解する。			
使用教材 参考文献	在宅看護論 (医学書院) (参) 地域療養を支えるケア(メディカ出版) 介護保険ガイド (参) 在宅看護論 (医歯薬出版) 訪問看護アセスメント			
評価方法	終講試験 出席状況 学習態度 (聴講の姿勢 課題提出状況 発表 小テストなど)			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
4時間	1. 在宅看護の目的と特徴	1. 在宅看護が必要な背景 2. 在宅看護が提供される場や広がり 3. あらゆる面からQOLを考える 4. 在宅看護における看護師の役割と機能		講義 グループワーク
4時間	2. 対象の理解(療養者・家族)	1. 療養者の特徴(健康段階、年齢層、疾患・障害を持つ人) 2. 対象者である家族について 家族形態の変遷と特徴、家族アセスメント 3. 住まいと健康		講義 DVD グループワーク
2時間	3. 在宅療養の支援	1. 在宅看護の提供方法 2. 療養の場の移行(退院調整と退院支援) 3. 継続看護 4. 在宅で生活する対象を支える看護師の役割		講義 DVD グループワーク
10時間	4. 在宅看護を支える制度とシステム	1. 地域ケアシステム 2. 在宅療養を支える訪問看護 1) 訪問看護制度の創設と経緯 2) 訪問看護ステーションの仕組み 3) 訪問看護と介護保険制度と医療保険制度の関係 3. 訪問看護ステーション以外の訪問看護制度 4. 在宅療養を支援する社会資源の活用(主に介護保険制度) 5. 地域包括支援センターの活動と役割 6. 多職種連携 1) 医師との連携 2) 介護支援専門員の役割と活動および連携 3) 在宅生活を支える他職種の理解と連携		講義 DVD グループワーク
4時間	5. 在宅看護における安全性の確保	1. 在宅看護における安全性の確保 1) 感染防止 標準予防策・実際在宅ケアでの諸問題への対応 2) 医療事故防止 3) 災害時の在宅看護		講義 DVD グループワーク
5時間	6. 対象者の権利保障	1. 個人の尊厳と自己決定権 2. 個人情報の保護 1) 個人情報保護法の定義・適用される事業所 2) 保有個人データの開示 3) 遺族への診療情報の提供 3. 成年後見 4. 虐待 1) 療養者を抱える家族に及ぼす影響と変動 2) 介護負担が引き起こす社会問題 3) 地域の特性		講義 グループワーク
1時間	総合評価	終講試験		

シラバス

2名とも病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
在宅看護援助論 I	2年次	1単位	45時間	渡司 美鈴・西山 りか
科目目標	1. 在宅療養生活を支える生活ケアとしての看護技術を学ぶ 2. 在宅における医療管理について、中重度療養者の生活に着眼した看護を学ぶ			
使用教材	在宅看護論（医学書院）			
参考文献	写真でわかる訪問看護 VTR (DVD)			
評価方法	終講試験、出席状況、学習態度(聴講の姿勢、課題提出状況、発表、小テストなど)			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
6時間	I 在宅で看護を展開するにあたって	1. ICF の概念に基づく療養者の生活を支えるためのコミュニケーション 2. 療養者と家族の「生活行為」(活動・参加)の支援のための視点 3. 在宅看護過程展開のポイントと展開方法 4. 療養上のリスク・マネジメント		講義
14時間	II 在宅療養者の心身機能・身体構造に応じた看護	1. 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 ① 食生活・嚥下に関するアセスメント ② 経管栄養法 ③ 在宅中心静脈栄養 (HPN) 2. 排泄に関する在宅看護技術 ① 排泄の特徴、排尿・排便のアセスメント ② 尿道留置カテーテルに関する看護 ③ 人工肛門・人工膀胱の療養者に対する看護 3. 移乗・移動に関する在宅看護技術 移乗・移動の特徴、アセスメント 4. 褥瘡予防とケア 5. 認知機能のアセスメント方法と援助技術 認知機能のアセスメントと援助の適応条件		講義 DVD
24時間	III 特徴的な疾病と在宅医療技術を必要とする療養者への看護	1. COPD の療養者に対する在宅看護 ① 呼吸管理・ケアの特徴・呼吸機能のアセスメント ② 呼吸機能に関する在宅看護技術 ③ 在宅における清潔援助の工夫 ④ 在宅酸素療法 (HOT) ⑤ 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) ⑥ 在宅人工呼吸療法と排痰法		講義 演習
		2. 終末期(がん)の療養者に対する在宅看護 ① 症状に応じた看護 ② 在宅における終末期看護の特徴		講義 演習
1時間	総合評価	看護過程および演習評価・終講試験		

引用・参考文献

- ① 看護技術プラクティス[第4版] 2019年10月10日第1刷 学研
- ② 病気がみえる Vol.4 呼吸器 2018年12月14日 第3版第1刷 メディックメディア
- ③ 見てわかる腎・泌尿器ケア 2015年6月3日 第1版第1刷 照林社
- ④ はじめてのストーマケア 2011年2月20日 第1版第4刷 メディカ出版
- ⑤ 図でわかるエビデンスに基づく痛みの緩和と看護ケア 2009年8月1日 中央法規出版

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
在宅看護援助論Ⅱ	3年次	1単位	30時間	西山 りか
科目目標	<p>【目的】 対象の健康課題や生活上の問題に対する的確な判断能力を養うとともに、療養者の生活に合わせた在宅看護の展開ができる。 また在宅では、療養者と家族が支え合いながら療養生活をしている為、相談的・教育的な対応方法を学ぶ。</p> <p>【目標】 1. 対象別に在宅療養者とその家族に対する看護援助方法を理解する。 2. 在宅看護で必要とされる看護技術を理解する。 3. 対象別の事例を通し、在宅療養者とその家族に対する看護過程を展開する。</p>			
使用教材 参考文献	<p>在宅看護論 (医学書院) VTR (DVD) 地域療養を支えるケア (メディカ出版) 在宅看護過程 (医学書院) 訪問看護アセスメント・プロトコル (中央法規) よくわかる在宅看護 (Gakken)</p>			
評価方法	<p>終講試験 出席状況 学習態度 (聴講の姿勢 課題提出状況 発表 小テストなど)</p>			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
2時間	A. 在宅看護 介入時期別の特徴	1. 退院前(在宅療養準備期) 2. 在宅療養移行期 3. 在宅療養安定期 4. 急性増悪期 5. 終末期		講義
2時間	B. 脳卒中を起こした患者の 在宅療養導入の事例展開	1. 情報収集 2. リハビリ病院の退院計画 3. 在宅療養の開始		講義 グループワーク
2時間	C. パーキンソン病の療養者 在宅看護の事例展開	1. パーキンソン病の理解 2. 主要な症状と日内変動 3. 本人と家族の関係調整や多職種との連携 4. 看護計画の立案		講義 DVD グループワーク
4時間	D. 認知症の療養者に対する 在宅看護の事例展開	1. 認知症の理解(種類と症状) 2. 認知症の自立度判定基準 3. 認知症高齢者への支援対策と社会資源の活用		講義・DVD グループワーク
2時間	E. 小児の療養者に対する 在宅看護の事例展開	1. 子供を対象とする医療費助成 2. レスパイトケア 3. 家族支援と制度 4. 成長発達への支援 5. 看護計画の立案		講義 グループワーク
2時間	F. ALSで人工呼吸療法を 実施する療養者の 在宅看護の事例展開	1. ALSの疾患の理解 2. 神経難病対策と制度 3. 緊急時のサポート体制 4. レスパイトケア 5. 看護計画の立案		講義 DVD グループワーク
4時間	G. COPDの療養者に対する 在宅看護の事例展開	1. 在宅酸素療法に関する在宅技術演習 2. 看護計画立案:酸素療法を受ける対象の入浴介助		講義 演習
2時間	H. 独居の療養者に対する 在宅看護の事例展開	1. 情報収集 2. アセスメント 3. ケアプランと看護目標・看護計画 4. 訪問看護の実施経過・評価		講義 グループワーク
2時間	I. 終末期の療養者に対する 在宅看護の事例展開	1. 情報収集 2. 退院後訪問開始初期 3. 安定期 4. 終末期・臨死期・死亡前 5. 死亡直後		講義 DVD グループワーク
4時間	J. 統合失調症の療養者に 対する在宅看護の事例展開	1. 情報収集 2. アセスメント 3. 看護目標・計画 4. 訪問看護の経過とケアの実際 5. 短期目標・計画の評価		講義 DVD グループワーク
3時間	k. 在宅看護論における 実習の手引き	1. 実習に向けた心構え 2. 訪問看護倫理要綱 3. 関係法令 4. 保健・医療・福祉の動向と訪問看護の歴史		講義 DVD グループワーク
1時間	総合評価	終講試験		

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
在宅看護論 実習	3年次	2単位	90時間	西山りか 他
科目目標 及び 授業計画	<p>I 目的 自宅やそれに準じた環境で療養する人々と、その家族を対象とする在宅看護の役割を理解し、現状を踏まえた援助ができるための知識・技術・態度を習得する。</p> <p>II 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活の場での療養する個人とその家族に対する看護の役割が理解できる。 2 地域で生活している人々の健康や生活の問題に対し、解決に関わる他機関や他職種 of 役割を理解し、調整的役割の必要性が理解できる。 3 施設と在宅を結ぶ継続看護の必要性を理解でき、困難と不安に直面する家族を支え、療養者と家族が共に生きるための支援の重要性が理解できる。 4 対象者を取り巻く環境を理解し、その人の価値観と考え方を尊重し接することができる。 <p>III 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 設置母体・職員構成 2 訪問看護実績 3 訪問看護体制・一日の流れ 4 訪問対象の特徴 5 記録類の取り扱い 6 他機関・施設・担当医師との連携 7 療養者の理解 8 家庭内における療養者の位置づけ・役割 9 主な介護者 10 訪問看護師が実施している看護・援助の理解 11 訪問の必要性や目的の理解 12 在宅ケアのシステムの理解 13 緊急時の対応 14 在宅療養で活用できる社会資源の理解 15 他職種との連携や法的根拠 16 継続看護の必要性 17 デイサービスの役割や特徴 18 対象の活動への参加・利用状況 19 対象の生活環境と健康状況 20 対象の介護度の状況 <p>IV 実施施設</p> <p>福山病院 訪問看護</p> <p>指定居宅介護支援事業所 福山の里</p> <p>福山の里 デイサービスセンター</p> <p>グループホーム 福山の里</p> <p>重症心身障害児(者)施設 オレンジ学園</p>			
履修要件	既習の基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ (在宅看護概論・在宅看護論Ⅰ)の単位を取得していること。			
授業の 進め方	在宅看護論実習要綱に基づき実習を行なう。			
評価方法	出席状況・看護実施状況・実習記録・規定の評価表に基づいて評価する。			

シラバス

徳永美代子 病院にて看護師として実務経験あり

清武秀一 病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
看護管理と研究	3年次	1単位	30時間	徳永美代子・清武秀一
科目目標	1. 生命の尊厳と倫理観に基づいた職業倫理を理解する。 2. 看護活動を行うための管理について理解する。 3. チーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整とリーダーシップおよびマネジメントの必要性を理解する。 4. 看護における研究及びケーススタディの意義を理解する。 5. 文献検索および文献検討の方法を理解する。 6. 研究の方法の過程の概要を理解する。 7. 発表および参加の仕方を理解する。 8. ケーススタディの計画書及び論文作成を体験する。 9. 臨地実習での自己の看護実践を記述し、文献を用いた意味づけを体験する。			
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
2時間	<看護管理> 1. 看護とマネジメント	1. 看護管理学		・講義
2時間	2. ケアのマネジメント	2. 看護におけるマネジメント 1. ケアのマネジメントと看護職の機能 2. 看護基準と看護手順 3. 患者の権利の尊重 4. 安全管理 5. 看護職の協働 6. 他職種との協働 7. 情報（電子媒体による記録）		・講義 ・グループワーク （事例）
4時間	3. 看護サービスの マネジメント	1. 看護サービス・組織目的達成・協働・情報・ 技術のためのマネジメント 2. サービスの評価		・講義 ・グループワーク(事例)
2時間	4. 看護を取り巻く 諸制度	1. 看護の定義と看護職 2. 看護実践の領域と場 3. 医療制度		・発表 ・講義
4時間	5. マネジメントに 必要な知識と技術	1. 組織とマネジメント 2. リーダーシップとマネジメント 3. 組織の調整 4. 組織と個人		・講義 ・事例検討
1時間	まとめ・評価	終講試験		
使用教材 参考文献	看護の統合と実践1「看護管理」…医学書院 看護管理 看護研究 看護制度…メヂカルフレンド社			
評価方法	終講試験		出席状況	
講義時間	授業要目	授業内容		授業形態
3時間	<研究> 1. 研究の基本的知識	1. 看護における研究の意義 2. 文献の活用 3. 研究の過程の概要, 方法, 留意点		・講義
8時間	2. 文献検討の実施 3. ケーススタディの 実際	1. 文献活用の必要性と仕方 2. 検討と整理の仕方 1. 研究課題の発見 2. ケーススタディ計画立案 3. 論文の作成 4. 発表媒体の作成		・演習 （ケーススタディ作成） ・個別指導
4時間	4. 研究発表	1. 発表 2. 運営と参加 3. 振り返り		・演習(発表会)
使用教材 参考文献	看護学概論(医学書院), これならできる看護研究(照林社) わかりやすいレポートの書き方・ステップ別ケーススタディ(照林社)			
評価方法	ケーススタディ(原稿), ケーススタディ作成時や個別指導時の姿勢, 講義および発表時参加状況			

シラバス

紀成子 病院にて看護師として実務経験あり
伊瀬知育美 病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
医療安全	2年次	1単位	30時間	紀成子・伊瀬知育美

科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンエラーを起こす存在として自己を認識し、自己の行動を客観的に振り返ることができる。 2. 医療システムの中の危険要因を知り、診療の補助技術における自己防止のための知識・技術を習得する。 3. ハイリスク環境下で、安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる。 4. 実践に即した技術演習をとおして、専門職としての責任感と倫理観を身につける。
------	--

使用教材 参考文献	医療安全・・・医学書院 看護実践マネジメント・・・メヂカルフレンド 医療におけるヒューマンエラー・・・医学書院
--------------	---

評価方法	終講試験, 課題レポート, 出席状況, 学習態度
------	--------------------------

講義時間	授業項目	授業内容	授業形態
4	1. 医療安全とヒューマンエラー	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンエラーとは 2. 医療安全 	講義・演習
4	2. ヒューマンエラーが発生する要因	<ol style="list-style-type: none"> 1. システム不備による事故 2. 個人・モノに起因する事故 3. 自己モニタリング 	
6	3. 医療事故と看護業務	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故の構造 2. 医療における安全対策 3. 看護における安全対策 4. 医療に潜む危険因子 (誤薬, 転倒転落, 誤嚥, 医療機器・用具のトラブル他) 	講義
4	4. 看護事故防止の考え方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事故報告 2. 患者・家族への対応 3. インシデント・アクシデント 	講義
4	5. 安全に関する知識の確認と看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療時の補助技術において誤りが生じやすい状況 2. 誤りを防ぐための対処法 3. 点滴下数・薬物の濃度・重さ・量の換算 4. 障害を起こす危険性の高い薬物とその特徴 5. 危険を回避する方法 	講義 演習
6	6. ハイリスク環境下での看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に投与する業務における事故防止 2. 継続中の危険な医療行為・観察・管理における事故防止 3. 療養上の世話における事故防止 4. 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 5. 医療安全とコミュニケーション 6. 組織的な安全管理体制への取り組みとわが国の医療安全対策の展望 	講義
2	まとめと総合評価		終講試験

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
災害看護学・国際看護学	2年次	1	15時間	徳永美代子
科目目標	1. 災害医療・災害看護の概念を理解する。 2. 災害各期の看護活動を理解する。 3. 災害時の応急処置の実際を理解する。 4. 被災者の心理的ケアの必要性を理解する。 5. 看護の国際協力について理解できる。			
使用教材 参考文献	災害看護学・・・医学書院 メジカルフレンド・メディカ出版 国際看護学・・・医学書院			
評価方法	終講試験・出席状況・課題レポート			
講義時間	授業要目	授業内容	授業形態	
2時間	1. 災害看護学・国際看護学とは	1. 災害看護学を学ぶにあたって 2. 国際看護学を学ぶにあたって	講義	
2時間	2. 災害看護学	1. 災害医療の基礎知識	講義	
2時間		2. 災害看護の基礎知識		
2時間		3. 災害サイクルに応じ現場別の災害看護	VTR	
2時間		4. 被災者特性に応じたの展開 5. 災害とこころのケア 6. 災害看護活動の課題	グループワーク 発表	
2時間	3. 地震災害看護の展開	1. 発災直後から出勤までの看護 2. 急性期看護 3. 亜急性期の看護	講義	
2時間	4. 国際救援活動における看護	1. 国際救援の定義 2. 国際救援活動の基本理念 3. 近年の世界における災害と国際救援活動の現状と課題 4. 国際救援活動における看護の役割	講義 資料	
2時間	5. 国際看護学	1. 看護とグローバリゼーション 2. 国際看護学とはなにか 3. 開発と健康 4. 保健医療の国際協力	講義	
1時間		終講テスト	テスト	

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単 位	時間数	担 当 者
臨床看護の実践	3年次後期	1単位	15時間	渡 司 美 鈴
科目目標	1. 対象の状況を判断し、看護上の問題を明らかにして援助ができる。 2. 計画に沿った看護実践中に起こる割り込み状況(予期しない患者の反応、突発的な事態、時間切迫など)に対し、対処方法が判断できる。 3. チームメンバーと連携(報告・連絡・相談含む)しながら、安全な看護技術の実践ができる。 4. 看護実践を相互に評価し、自己の課題を考察できる。			
使用教材	事例提示 基礎看護技術Ⅱ, 成人看護学総論, 成人看護学各論(医学書院) 疾患別看護過程の展開(学研)			
評価方法	課題の提出, グループワークの参加態度, 看護実践状況, 分析考察した記録などから評価			
講義時間	授 業 要 目	授 業 内 容		授 業 形 態
2時間	1. 演習の進め方	1. 演習のねらい・目的 2. 演習の進め方 3. 評価方法 4. 「卒業時の看護技術到達度」の分析		講 義
2時間	2. 事例と課題の提示	1. 「卒業時の看護技術到達度」の分析結果 2. 国家試験必修問題との対比 3. 事例の提示 4. ワークシートの作成方法 1) 課題を次の時間までに調べ、提出。		講 義
4時間	3. 学習の共有 4. 看護計画立案	1. 事例の治療や検査, 処置に関する知識の確認 2. グループワークによる学習の共有 1) 個々の患者の病態や回復過程の理解 2) 患者の治療や検査, 処置に対する知識と必要な援助 3. 発展学習, 関連学習 1) 患者に実施すべきケア計画の立案 2) 指定の記録用紙に記入し教員に提出		講 義 G W
2時間	5. 技術の習得	1. 患者の状態に合った看護技術の習得 1) 行動計画に沿って技術練習を行う		G W
4時間	6. 看護実践	1. 演習 1) 計画に基づいて援助を行う中で突発的な事態, 予期しない患者の反応を演習中に提示する 2) 突発的な事態, 予期しない患者の反応にメンバーで協力して対応する		演 習
1時間	7. 評価	1. 実践内容の振り返り 1) 計画の妥当性 2) 突発的な事態, 予期しない患者の反応に対する優先度の決定, 状況判断等 3) 振り返りの内容をクラスで共有する 2. まとめ		演 習 講 義

シラバス

病院にて看護師として実務経験あり

授業科目	履修年次	単位	時間数	担当者
統合実習	3年次	2	90	下登 孝子 他
科目目標 及び 授業計画	<p>I. 目的 看護チームの一員としての体験、夜間実習、複数患者の受持ちをとおして、専門的な知識を統合し、看護実践能力を身につける。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護部や病棟看護師長の役割を理解し、病棟管理の実際や他部門との調整等の見学をとおして看護管理の実際を学ぶ。 2. コーディネーターやチームメンバーの役割を理解し、業務の調整や、医師や他部門との連携およびチームの一員としての役割が理解できる。 3. 複数の受持ち患者の状況をアセスメントし、ケアの優先順位の判断や時間管理をすることで適切な看護を実施できる。 4. 診療の補助技術を、安全性、正確性を考慮しながら実施できる。 5. 統合実習で学んだことをとおして、看護師としての自己の目標や課題を明確にできる。 <p>III. 実習内容 実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設は基礎・成人看護学実習をしている市立病院の病棟とする。 2. 実習場所は成人・老年期の入院患者を主とする病棟とする。 3. 実習期間は3週間の集中実習とする。 4. 実習時間は実習病院の勤務体制に合わせた設定とする。 <p>IV. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数(2人以上)の患者を受け持つ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習時間は、8時30分から15時30分までと、夜間実習10時30分から19時までとする。 2) 受持ち患者の複数課題の優先度を判断し実践する。 3) 看護チームとしての申し送りを見学する。 2. 受持ち患者をとおして、他職種ならびに地域との連携を体験する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) その地域の医療の現状と地域における実習病院の位置づけと役割を知る。 3. 病棟における看護管理の実際を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習期間の1日を看護師長の役割についての実習とする。 2) 実習期間の1日をチームリーダーの役割について学び、メンバーシップを養う。 4. 病棟での患者カンファレンスに参加する。 <p>V. 実習施設 鹿兒島市立病院</p>			
履修要件	既習の基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ統合分野(医療安全、災害・国際看護)の単位を取得していること。			
授業の進め方	統合実習要項に基づき実習を行う。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、規定の評価表に基づく			